

技術力維持・向上対策研修

技術力維持・向上対策研修

I. 研修の実施概要

1. 運営体制

別図(132頁参照)のとおり研修運営を行った。

2. 技術力維持・向上対策研修の実施概要

(1)研修の目的

市町村への指導・助言の役割を担うべき森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的として、森林経営管理制度、地域の森林・林業の再生、林業の成長産業化等の課題をテーマに、現地検討及び討議等を通じて現場レベルでの課題解決策を共有する研修(以下「実践研修」という)を実施する。

(2)対象者

森林総合監理士、都道府県職員、市町村職員、森林管理局署職員、団体職員等

(3)研修内容

研修は全国を6ブロック(北海道、東北、関東、中部、近畿中国、四国)に区分し、各ブロックでテーマ及びカリキュラムを設定。2泊3日の日程で研修を実施した。なお、九州では実施していない。

各ブロックの研修テーマ一覧

ブロック	テーマ
北海道	成熟した高齢級人工林における森林づくり～伐採と更新方法を考える～
東北	路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査
関東	主伐・再造林に向けた、ニホンジカ被害対策全体構想の作成と実行について
中部	伐採・造林一貫作業システム(架線+路網)と木材流通
近畿中国	一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業
四国	地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について

①北海道ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)(133頁参照)

②東北ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)(135頁参照)

③関東ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)(137頁参照)

④中部ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)(139頁参照)

⑤近畿中国ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)(141頁参照)

⑥四国ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)(143頁参照)

(4)研修実施場所・研修日程

全国6ブロックにおいて9月から11月に実施した。

ブロック	開催場所	研修会場	現地実習箇所	日程
北海道	北海道函館市	函館コミュニティプラザ Gスクエア	北海道亀田郡七飯町 城岱国有林2098林班外	9月1日～3日
東北	岩手県盛岡市	アイーナ いわて県民情報交流センター	岩手県岩手郡雫石 雫石町御明神荒沢山国有林735は1林小班外	9月2日～4日
関東	群馬県沼田市	利根沼田文化会館	群馬県利根郡 利根郡昭和村赤城山第2国有林159い4 林小班外	10月14日～16日
中部	岐阜県中津川市	中津川市にぎわいプラザ	岐阜県中津川市 湯舟沢国有林2206い林小班外	9月16日～18日
近畿 中国	岡山県新見市	新見商工会館	岡山県新見市 古谷国有林527林班	9月8日～10日
四国	高知県高知市	四国森林管理局	高知県中土佐町 島ノ川山国有林3229林班外	11月11日～13日

(5)研修受講者

都道府県別修了者数(全区分)

ブロック別修了者数(全区分)

ブロック	都道府県名	修了者				修了者					
		都道府県	市町村	国有林	民間	都道府県	市町村	国有林	民間		
北海道	北海道	12	10	0	2	0	12	10	0	2	0
東北	青森県	2	2	0	0	0	13	7	1	1	4
	岩手県	7	3	1	1	2					
	宮城県	3	1	0	0	2					
	秋田県	0	0	0	0	0					
	山形県	0	0	0	0	0					
	福島県	1	1	0	0	0					
関東	茨城県	1	0	0	0	1	9	3	0	1	5
	栃木県	2	0	0	1	1					
	群馬県	0	0	0	0	0					
	埼玉県	2	1	0	0	1					
	千葉県	0	0	0	0	0					
	東京都	0	0	0	0	0					
	神奈川県	2	1	0	0	1					
	新潟県	0	0	0	0	0					
	山梨県	1	1	0	0	0					
	兵庫県	1	0	0	0	1					
中部	福島県	1	1	0	0	0	12	10	0	1	1
	富山県	0	0	0	0	0					
	石川県	0	0	0	0	0					
	福井県	0	0	0	0	0					
	長野県	1	0	0	0	1					
	岐阜県	4	3	0	1	0					
	静岡県	2	2	0	0	0					
	愛知県	1	1	0	0	0					
	三重県	0	0	0	0	0					
	滋賀県	1	1	0	0	0					
	奈良県	1	1	0	0	0					
和歌山県	1	1	0	0	0						
近畿中国	京都府	1	1	0	0	0	9	5	0	2	2
	大阪府	0	0	0	0	0					
	兵庫県	3	2	0	0	1					
	和歌山県	1	0	0	1	0					
	鳥取県	0	0	0	0	0					
	島根県	1	0	0	1	0					
	岡山県	3	2	0	0	1					
	広島県	0	0	0	0	0					
山口県	0	0	0	0	0						
四国	兵庫県	2	0	0	0	2	16	4	1	4	7
	奈良県	1	1	0	0	0					
	徳島県	4	0	1	1	2					
	香川県	0	0	0	0	0					
	愛媛県	1	1	0	0	0					
	高知県	6	0	0	3	3					
	福岡県	1	1	0	0	0					
	佐賀県	0	0	0	0	0					
	長崎県	0	0	0	0	0					
	熊本県	0	0	0	0	0					
	大分県	1	1	0	0	0					
	宮崎県	0	0	0	0	0					
鹿児島県	0	0	0	0	0						
沖縄県	0	0	0	0	0						
合計		71	39	2	11	19	71	39	2	11	19

(6)研修修了者の年齢構成、男女比

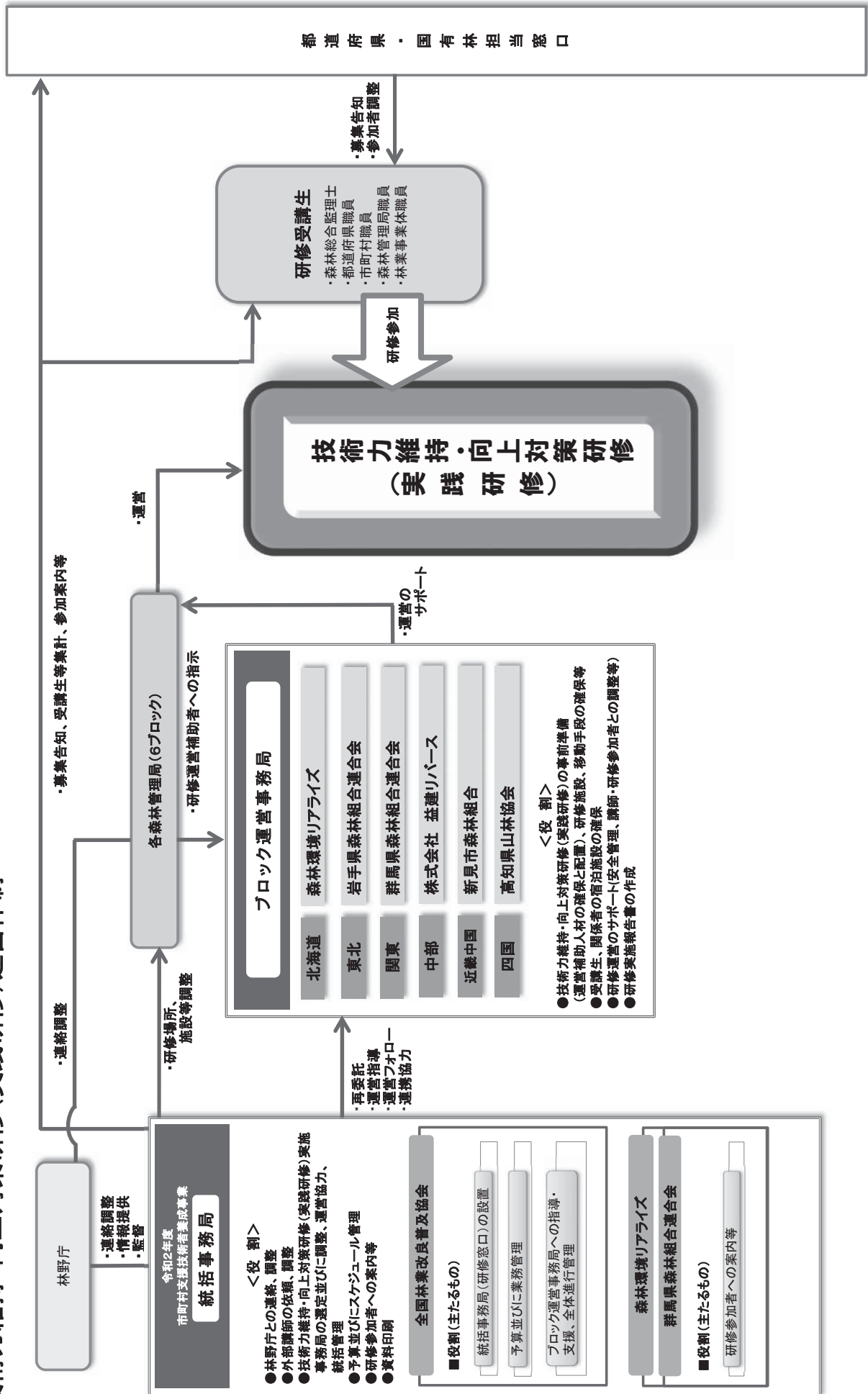
○年齢構成

年代	総数	20代	30代	40代	50代	60代	全体平均年齢(歳)
人数(人)	71	6	16	24	22	3	45.1
比率(%)	100.0	8.5	22.5	33.8	31.0	4.2	

○男女比

	総数	男性	女性
人数(人)	71	64	7
比率(%)	100.0	90.1	9.9

1. 技術力維持・向上対策研修(実践研修)運営体制



①北海道ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ:成熟した高齢級人工林における森林づくり～伐採と更新方法を考える～】

		午後						
		13:00～13:30 (30分)	13:30～13:50 (20分)	13:50～14:10 (20分)	14:20～15:20 (60分)	15:20～15:40 (20分)	15:50～17:10 (80分)	17:10～17:20 (10分)
9月1日 (火)		集合	オリエンテーション (担当:局研修担当官)	研修の目的・内容 (担当:局研修担当官)	【講義】背景・現状に関する基礎知識 (担当:局講師)	【講義】木材需給・流通に関する基礎知識 (担当:外部講師)	【机上演習】グループ演習① 施業案を机上作成 (担当:局研修担当官)	まとめと翌日の現地検討の進め方説明 (担当:局研修担当官)
	9月2日 (水)	8:30～12:00 (バス移動含む)	昼食	【現地見学】コンテナ苗の生産現場の見学 (担当:局研修担当官、外部講師、局講師)	13:00～15:00 (バス移動含む)	【机上演習】グループ演習③ 机上案の修正 (担当:局研修担当官)	15:00～17:00	
9月3日 (木)		9:00～10:40 (100分)	10:40～12:00 (80分)	12:00～13:00	13:00～15:00 (120分)	13:00～15:00		
		【机上演習】グループ演習④ 机上案の発表準備 (担当:局研修担当官)	【発表】検討結果の発表⑤ 質疑応答 (担当:局研修担当官、外部講師、局講師) 15分(発8、PKT2、質5)×3 班 45分	昼食	【講評等】検討結果に対する講師講評 (外部講師/内部講師)	解散		

技術力維持・向上対策研修(実践研修)の概要

北海道ブロック

テーマ	成熟した高齢級人工林における森林づくり ～伐採と更新方法を考える～				
研修場所	函館市	実施日	9月1日～3日	該当する大目標	施業コスト低減の戦略を描ける能力の習得
【研修のねらい・目標】					
「主伐期を迎えた林分の施業案作成」等を実践的に学ぶことを通じて、低コストな更新技術等を習得する。					
【本研修の必要性】					
人工林資源が利用期を迎えていることから、森林資源の循環利用が課題であり、公益的機能を発揮しつつ資源の齢級構成の平準化も見据えた森林造成が重要である。このためには、中長期的かつ面的広がり視点を持ち、適時適切な施業を行う他、自然条件等に応じて多様な森林へ誘導する必要がある。					
【講義のポイント】					
【講義】					
①「背景・現状に関する基礎知識」 ②「木材需給・流通に関する基礎知識」 ③「北海道森林管理局における低コスト施業の事例」					
【グループ演習】					
演習地とするトドマツ人工林における伐採・更新計画を考える。					
・机上案作成：各グループ内で検討。グループの伐採・更新計画の机上案を作成する(初日)。 ・現地演習：演習の現地において、机上案の実現性・妥当性等を確認・再検討し、伐採・更新計画案を確定する(2日目)。 ・発表・講評：各グループの伐採・更新計画案をプレゼンテーションし、全員で共有し講師から講評を受ける(3日目)。					
【現地見学】					
コンテナ苗の生産現場を見学する(2日目)。					
【まとめ】					
技術の普及に向けた、今後の取り組みについて。					
地域における伐採・再生林の現状(問題点等)について、把握しておく。					
【研修講師】					
鳴瀬拓也((研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 北海道支所 地域研究監)					

②東北ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ: 路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査】

9月2日(水)(午後)				
13:00～13:30	13:40～14:40	14:50～15:50	16:00～16:30	16:30～17:30
30分	60分	60分	30分	60分
開講式 オリエンテーション等	【講義】 森林作業道とは	【講義】 森林作業道配置計画の基礎知識	【演習】 情報技術を用いた森林路網計画の手順と方法	【グループワーク】 森林作業道配置図の作成
局研修担当	休息	休息	休息	外部講師 局講師
				17:30～17:45
				15分
				連絡報告等

9月3日(木)(午前)				
8:30～9:10	9:10～9:20	9:20～10:30	10:30～11:00	11:00～12:00
40分	10分	70分	30分	60分
バス移動 「栗石町御明神公民館」へ	前日のふりかえり、現地検討の進め方	【演習】 森林作業道配置図の作成等	公民館から「演習箇所」へ移動	【演習】 森林作業道配置事例の研究
	局講師	外部講師 局講師		外部講師 局講師
				12:00～12:50
				50分
				昼食
				12:50～16:10
				200分
				【演習】【グループワーク】 森林作業配置の現地検討～情報化技術を用いた現地踏査～
				外部講師 局講師
				16:10～17:15
				65分
				バス移動 研修会場へ

9月4日(金)(午前)				
9:15～9:20	9:20～10:30	10:40～11:25	11:25～11:55	11:55～12:05
5分	70分	45分	30分	10分
日程説明	【グループワーク】 森林作業配置図の作成 路網配置の決定とその評価	発表	講評	アンケート記入
局研修担当	外部講師 局講師			局研修担当
				12:05～12:15
				10分
				閉講式

技術力維持・向上対策研修(実践研修)の概要

東北ブロック

テーマ	路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査				
研修場所	盛岡市	実施日	9月2日～4日	該当する大目標	循環的な木材生産の戦略を描ける能力の習得
【研修のねらい・目標】					
<p>情報化技術を活用し、地形・地質及び立木の資源状況に応じた適切な森林作業道の配置計画を考えることができ、実践的な指導・助言ができるようにする。</p>					
【本研修の必要性】					
<p>地域の森林を整備・管理し、木材を搬出して森林・林業を再生していくためには、路網が適切に整備されていることが重要である。しかしながら、地域における森林作業道の計画を立案できる技術を有する者は少ない状況にある。</p> <p>そのため、情報化技術を活用した森林作業道の路網配置計画を有するとともに、現地の林況に応じた効率的な森林作業道の配置を計画できる者を育成していくことが必要不可欠である。</p> <p>本研修によって、既設の森林作業道を検証するとともに新たな森林作業道の計画及び現地における検討を通じて、実践的な指導・助言ができるようになる。</p>					
【講義のポイント】					
【講義：外部講師】					
<p>現地検討を深めるため、テーマに関連した技術的な最新の知見、現地検討のポイント等についての講義を実施する。</p>					
【グループ演習】					
<p>講義の実施後に机上で、1/5,000図面(白図)および、CS立体図に森林作業道を計画する。</p>					
【現地演習】					
<p>現地の既設森林作業道を確認・検証する。 机上の森林作業道計画図面により現地踏査を行い、図面と実際の現地の違いを確認する。 情報化技術によって表現された情報と現地での実態を理解する</p>					
【グループ演習・発表・意見交換】					
<p>机上の森林作業道計画図面に基づいて、現地を確認した上で、班ごとに地形・地質等により森林作業道の計画位置変更等、効率的な森林作業道作設に向けた検討・発表・意見交換を行う。</p>					
【研修講師】					
<p>斎藤仁志(岩手大学農学部 准教授)</p>					

③ 関東ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ:主伐・再造林に向けた、ニホンジカ被害対策全体構想の作成と実行について】

期間10月14日(水)～16日(金)

		午 前			午 後		
1日目 (10/14)	研修の ねらい	オリエンテー ション等 (13:30～14:00)	【講義】 ①シカの生態と 被害の現状 (14:00～14:45)	【講義】 ②捕獲と密度管理 (14:45～15:45)	【講義】 ③防除対策事例と コスト (15:45～16:45)	現地実習 内容及び 【ふり かえり】 (16:45～ 17:15)	研修 担当 者
	担当 講師等	研修担当 者	外部講師	外部講師	外部講師		研修 担当 者
2日目 (10/15)	日程説明 等 (8:45～8:50)	【現地実習】 ①シカ被害の調査法と 行動特性の観察 (現地検討)	【現地実習】 ②くくりわな設置方法の実習 及びシカ柵設置の留意事項 (現地検討)	【グループワーク】 ③シカ被害対策 全体構想の検討 (現地踏査)	(移動) 昼食 (12:15～ 12:45)	【ふり かえり】 (17:00～ 17:15)	研修 担当 者
	研修の ねらい	実習地周辺の被害状況とシカ の行動特性を示す痕跡等を観 察し、被害調査手法や捕獲方 法別の留意点等を学ぶ。	わな設置における、シカ道の見 分け方、設置ポイント、設置方 法等について、実技実習を行 う。	シカの被害状況に応じた、主伐 再造林計画と生息調査、捕獲 手法、防除対策までの構想を 企画・立案するための現地調 査・検討を行う。	(12:45～ 13:30)		研修 担当 者
	担当 講師等	外部講師	外部講師	内部講師	現地 バス		研修 担当 者
3日目 (10/16)	日程説明 等 (8:45～8:50)	【グループワーク】 ② (発表、ディスカッション) (8:50～10:00)	【講義】 講評及び 総括講義 (10:00～11:00)	【ふりかえり】 及び 【閉講式】 (11:00～11:30)			
	研修の ねらい	各グループ毎に取りまとめた今後の対 策計画等を発表し、疑問点や気付かな かった点等をディスカッションし、シカ被 害対策の全体構想の企画・立案に当た り重要となる技術的ポイント等を共有す る。	各地の被害対策計画 事例及び研修を通して ポイントとなる部分をお さらいする。	研修担当 者			
	担当 講師等	2日目午後と同じ	2日目午後と同じ	研修担当 者			

技術力維持・向上対策研修(実践研修)の概要

関東ブロック

テーマ	主伐・再造林に向けた、ニホンジカ被害対策全体構想の作成と実行について		
研修場所	沼田市	実施日	10月14～16日
		該当する大目標	シカ被害対策における全体構想の作成と実現能力の習得
【研修のねらい・目標】			
<p>現在、シカの生息数の増加及び生息域の拡大により、森林の被害は深刻な状況にあることから、地域の被害対策の取組を総合的かつ効果的に推進するための知識・技術をさらに向上させ、対策の中核となるリーダーやコーディネーターとして関係機関等周囲と連携しつつ、被害対策の全体構想を作成し、実現に向けた取組が出来る人材の育成を目標とするものである。</p>			
【本研修の必要性】			
<p>ニホンジカによる森林被害の増加が著しい昨今、全国各地で様々な被害対策等が試行錯誤しながら取り組まれているところであり、民有林・国有林共通した重要な課題である。</p> <p>現在、それぞれの地域や団体等において、生息数調査、捕獲事業(狩猟・わな等)、侵入防止対策等(柵設置、忌避剤等)が研究開発され、成果を上げているところであるが、森林総合監理士にあっては、3本の大きな役割(構想の作成・合意形成・構想の実現)を果たすために必要なスキルを身につけ、今後の主伐・再造林の推進を見据えつつ、計画的な森林整備と一体的な獣害防止の取組を推進するため、これまでの最新の知見や各地の実行結果を踏まえた、地域に適合した被害対策の全体構想を計画・立案する技術の習得が必要であると考えられることから、当該テーマについての研修を実施することが必要と判断した。</p>			
【講義のポイント】			
【講義】			
<p>①森林被害の現状、シカの生態、生息状況の調査、密度管理手法、防除対策方法等(外部講師) →シカ被害対策に係る、最新の知見を踏まえて、被害把握から防除対策まで、幅広い知識を習得し、地域の被害対策全体構想を計画・立案できるためのスキルを身につける。 また、地域の関係者・団体、被害対策コーディネーター等と連携した取組事例等を学ぶ。</p> <p>②総括講義 →研修を通してポイントとなる部分をおさらいするとともに、今後の展望を学ぶ。</p>			
【現地演習】			
<p>①シカ被害の調査法と行動特性の観察手法の留意点等の実習 ②シカ捕獲作業(わな猟)現場の実例と、わな設置(場所選定方法、設置方法、わなの仕組み)の実習及びシカ柵設置の留意点等を学ぶ ③主伐・再造林の時期を向かえた林分における、今後のシカ被害対策の全体構想の企画・立案検討のための調査検討</p>			
【グループ演習】			
<p>①シカ被害対策の全体構想の企画・立案 →実習対象エリアの伐採方法～植栽方法の検討から、生息調査、捕獲手法、防除対策までの全体構想を作成する。</p>			
【研修講師】			
<p>岡 輝樹 ((研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 野生動物研究領域 領域長) 永田純子 ((研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 野生動物研究領域 主任研究員) 飯島勇人 ((研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 野生動物研究領域 主任研究員) 八代田千鶴 ((研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 関西支所 生物多様性研究グループ 主任研究員) 竹之内政勝(関東森林管理局 群馬森林管理署 総括治山技術官)</p>			

④中部ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ:伐採・造林一貫作業システム(架線+路網)と木材流通】

場所:岐阜県中津川市(中津川市にぎわいプラザ5Fコミュニティホール)、岐阜県中津川市(湯舟沢国有林2201ろ林小班)ほか

午 前		午 後	
1日目 9月16日 (水)	13:00~13:30 (30分)	13:30~17:10 (3時間40分)	17:10~17:15 (5分)
	・開講式 ・オリエンテーション	講義・説明・演習 ・伐採・造林一貫作業システムについて ・架線・路網について ・伐採計画の演習について	・2日目の 現地後討 について
	研修担当	林野庁講師	研修担当

午 前		午 後	
2日目 9月17日 (木)	8:00~12:40 (4時間45分)	12:40~13:25 (45分)	13:30~15:00 (1時間30分)
	伐採・造林一貫作業システム現地検討・意見交換 ・搬出の実施状況 ・地植え、シク防除対策等の確認 ・伐採・造林一貫作業システムによる主伐計画の後討	屋食	市場情報・意見交換 ・流通・販売等の講義、意見交換
	林野庁講師・外部講師	外部講師	林野庁講師
			15:00~17:10 (2時間10分)
			発表準備 ・伐採一貫作業による主伐及び低コスト造林について図面、シート等作成
			17:10~17:15 (5分)
			・3日目の 日程につ いて
			研修担当

午 前		午 後	
3日目 9月18日 (金)	9:00~9:10 (10分)	9:10~11:15 (2時間05分)	11:55~12:15 (20分)
	・日程説明 発表方法等説明	発表準備・発表 ・架線系作業システムによる主伐計画について図面、シート等作成 ・発表、ディスプレイ	・集合写真 ・アンケート ・閉講式
	研修担当	研修担当	研修担当
		11:25~11:55 (30分)	・講師講話
			林野庁講師

中津川市にぎわいプラザが9:00開館のため、3日目は9:05開始

技術力維持・向上対策研修(実践研修)の概要

中部ブロック

テーマ	伐採・造林一貫作業システム(架線)と木材流通				
研修場所	中津川市	実施日	9月16日～18日	該当する大目標	循環的な木材生産の戦略を描ける能力の習得
【研修のねらい・目標】					
<p>林業の成長産業化に貢献するためには、主伐・再造林を適切かつ低コストで実施する必要があることから、伐採・造林一貫作業システムについて現地検討・意見交換を行うことにより、課題解決力の向上、実践的な指導・助言ができる技術者の育成を図る</p>					
【本研修の必要性】					
<p>主伐・再造林を進めるためには、地拵え等の造林コストの縮減や作業効率化を図るために、林地残材の活用、コンテナ苗の利用推進が重要 そのためには、伐採・造林一貫作業システムを導入することにより作業効率・コスト面及び木材流通等の課題に対応できる技術者の育成が必要</p>					
【講義のポイント】					
【講義等】					
<p>①伐採・造林一貫作業システムについて(内部講師) →搬出計画(架線)の作成について講義、実習 →採材・仕分けについて講義 →造林コストの低減に向けた作業システムについて講義</p> <p>②流通・販売について(外部講師) →市場での有利販売に向けた取組、木材流通等に関する最新の情報について講義</p>					
【現地実習・視察・意見交換】					
<p>①1日目に作成した主伐計画の机上案により、伐採・造林一貫作業システム実施箇所の現地確認および集材方法・搬出系統等について検討し、効率的な搬出・造林作業ができるよう現地実習、意見交換</p> <p>②市場、木材流通等について視察、意見交換</p>					
【グループ演習・発表】					
<p>①講義・現地実習及び視察を踏まえ、伐採・造林一貫作業システムによる搬出計画の検討を行い、主伐から植栽、流通までを班内で検討してとりまとめ、発表・全体討議・講評</p>					
【研修講師】					
鈴木貴志(木曾官材市売協同組合 常務理事)					

技術力維持・向上対策研修(実践研修)の概要

近畿中国ブロック

講義等名	一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業				
研修場所	新見市	実施日	9月8日～10日	該当する大目標	森林を科学的に評価する能力の習得
【研修のねらい・目標】					
<p>・既存の人工林について、目的を再確認・再設定し、その目的を達成するために最適な目標林型を導き出す能力の習得。</p> <p>・天然力を活用した森林づくりに関する知見及び意識の向上。</p>					
【本研修の必要性】					
<p>森林の管理を正しく進め、適切な施業技術を適用するためには、森林の現況やそこで発揮が求められる機能(木材生産、生物多様性の保全など)に対応した森林の将来像を描き、森林施業を進めていくことが重要であり、森林総合監理士には、そのような将来像を描く力が求められている。</p> <p>人工林は、多くの場合、木材生産を目的として造成され、現存する人工林の多くは、短伐期施業による柱材生産を生産目標としてきた。しかしながら、木材需要動向の変化や森林の持つ多面的な機能への期待の高まりなどを受け、目的を再確認(場合によっては再設定)し、その目的を達成するために最適な目標林型を明確にする必要が生じている。既存の人工林で生産目標を再設定する際には、地位や林木の形状からみて、達成可能なものでなければならない。</p> <p>平成28年5月に策定された「森林・林業基本計画」では、木材等生産機能の発揮が特に期待される育成単層林を整備するなど森林資源の循環利用を図るとともに、公益的機能の一層の発揮を図るため自然条件等を踏まえつつ育成複層林への誘導を推進するなど、多様で健全な森林へ誘導するとされている。</p> <p>また、平成31年4月から運用が開始された森林経営管理制度では、森林所有者自らが森林の経営管理を実行できない場合に、市町村が森林の経営管理の委託等を受け、そのうち自然条件が悪く再委託ができない等の森林は市町村が管理を実施することとなる。その際には、公益的機能を発揮しつつ、管理コストが小さくなるよう、針広混交の育成複層林等へと誘導する必要がある。森林総合監理士には、この市町村による公的管理の取組への技術的支援が求められている。</p>					
【講義】					
<p>① 今後の森林づくりの考え方について【内部講師:計画課 流域管理指導官】今後の森林づくりに関する政府方針</p> <p>② 多様な森林づくりの構想について【外部講師:森林総研関西支所 森林生態研究グループ長】目標林型や地位について</p>					
【現地検討】					
<p>① 一斉人工造林地における今後の森林施業 45haの一斉人工造林地をフィールドとして、図面、衛星画像、森林調査簿等を用いて机上調査するとともに、地位等の森林の状況を現地調査</p> <p>② 天然力を活用した森林づくり 天然生広葉樹を活用して針広混交林の造成を行っている林分を調査</p>					
【グループ演習】					
<p>班ごとに、45haの一斉人工造林地をフィールドとして、現地検討の結果を踏まえて、「一斉人工造林地における今後の森林施業」をテーマに、以下の手順で検討し、発表をとりまとめる。</p> <p>①森林の現況(地位、森林被害状況等)と生産活動の可能性(路網、効率的な作業システム導入の可否等)の2つの視点から木材生産機能を評価するとともに、生物多様性などの他の公益的機能の発揮が重視される区域を検討。</p> <p>②①の結果から、区域と区域毎の目的を設定し、それぞれの目的を達成するために最適な目標林型(木材生産を目的とする場合は、伐期齢、伐期における主林木の胸高直径と本数密度。それ以外を目的とする場合には、混交林等)を検討。</p> <p>③目標林型に導くための森林施業について検討するとともに、近い将来更新を行うことを想定した場合には更新方法等を検討。</p> <p>各班から検討結果の発表を行ったのち、全員でディスカッションすることにより、技術的ポイント等を共有する。</p>					
【研修講師】					
山下直子((研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 関西支所 森林生態研究グループ長)					

⑥四国ブロック・技術力維持・向上対策研修(実践研修)のカリキュラムと概要(シラバス)

【研修テーマ:地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について】

実施期間: 令和2年11月11日(水)～13日(金)

日程	午 前				午 後								
	8:00～10:00	10:10～11:10	11:10～11:50	11:50～12:30	13:00 13:30	13:30～15:00	15:10～16:10	16:20～16:40	16:40 ～17:00				
11/11 (水)	(120分) 現地(トイレ休憩含む) 【バスにて移動】 島ノ川山3229	(60分) 採材研修	(40分) 架線集材作業現場見学及び説明 (元柱付近)	(40分) 昼食	(30分) 開講式(森林整備部長) 研修主旨、留意点の説明 (四国森林管理局会議室)	【講義】 (90分) 大型製材工場の現状と課題 地域の特性に合った木材流通等	【講義】 (60分) 集材架線システムの資料作成の説明 (コスト計算等) 簡易な架線集材の見学等	【実習】 (20分) 各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図(集材線・路網)を記入	(20分) ふりかえり (四国森林管理局会議室)				
11/12 (木)	資源活用課	外部講師	外部講師	外部講師	外部講師	外部講師	資源活用課	資源活用課	研修担当				
11/13 (金)	8:15～10:00 (105分) 各班で現地踏査等を踏まえた、集材架線システムの資料作成 (四国森林管理局会議室)	10:10～11:40 (90分) 各班発表 ①16名(4班) ②各班20分(10分発表、8分質疑応答) ×4班=72分 ・講評:18分 (四国森林管理局会議室)	11:10～11:40 (25分) ふりかえり(10分) アンケート(10分) ・閉講式(5分) ・終了/解散 (四国森林管理局会議室)	11:40～12:05 (25分) 研修担当	8:00～10:00 (120分) 現地(トイレ休憩含む) 【バスにて移動】 島ノ川山3229	10:10～11:10 (60分) 採材研修	11:10～11:50 (40分) 架線集材作業現場見学及び説明 (元柱付近)	11:50～12:30 (40分) 昼食	13:00 13:30 (30分) 開講式(森林整備部長) 研修主旨、留意点の説明 (四国森林管理局会議室)	13:30～15:00 (90分) 【講義】 大型製材工場の現状と課題 地域の特性に合った木材流通等	15:10～16:10 (60分) 【講義】 集材架線システムの資料作成の説明 (コスト計算等) 簡易な架線集材の見学等	16:20～16:40 (20分) 【実習】 各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図(集材線・路網)を記入	16:40 ～17:00 (20分) ふりかえり (四国森林管理局会議室)

技術力維持・向上対策研修(実践研修)の概要

四国ブロック

講義等名	地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について				
研修場所	高知市、須崎市	実施日	11月11～13日	該当する大目標	循環的な木材生産の戦略を描ける能力の習得
【研修のねらい・目標】					
急峻な地形に応じた効率的な架線系と作業路網を組み合わせた集材作業システムや大型製材工場の木材利用・流通事情について現地検討・意見交換を行い、地域における木材の安定供給について実践的な指導・助言ができる人材の育成を図る。					
【本研修の必要性】					
<p>四国においては、地形が急峻な箇所が多いなか地域の特性に応じた、効率的な架線集材システム、現地特性に応じた林業機械の組み合わせによる生産の効率化等が課題となっていることから、架線集材、高性能林業機械等を組み合わせた事業現場で現地検討等を行う。</p> <p>また、大型製材工場や木質バイオマス発電所が操業開始後、約8カ年が経過、その後他県においても大型工場やバイオマス発電プラント等が操業されていることから、最新の木材利用・流通事情及び今後の動向等について、情報を共有し、それぞれの地域における取組に資する。</p>					
【カリキュラムのポイント】					
[1日目]					
【講義】					
①大型製材工場の現状と課題〔外部講師〕					
②架線系作業システムについて説明(コスト計算に必要なデータは、内部講師より提供)〔内部講師〕					
③架線集材の基本(簡易な策張見学)〔内部講師〕					
④各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図(集材線・路網)を記入する					
[2日目]					
【現地視察】					
①事業地の集材作業システムについて説明。〔外部講師(素材生産請負事業者)〕					
②各班、事前に1/5000の図面に記入した、搬出系統図(集材線)を現地踏査の上、再検討を行う。〔外部・内部講師〕					
③採材研修を実施〔外部・内部講師〕					
[3日目]					
【意見交換】					
①各班で現地視察等を踏まえた、集材架線システムの発表(コスト計算含む)の資料づくり。					
②発表・意見交換・講評					
【研修講師】					
砂田和之(株式会社サイプレス・スナダヤ 代表取締役社長)					
大川容平(高知県森林組合連合会 高幡共販所 所長)					
太郎田佑一(須崎地区森林組合 業務主任(造林・林産))					

Ⅱ. 各ブロックの研修実施状況

実践研修の実施状況を共有する資料として、各ブロックの研修の概要をまとめた「実施報告書」、研修運営を通じた問題点と改善策をまとめた「運営改善報告」、受講生のアンケートを集計した「アンケート結果」を作成した。

なお、「実施報告書」は、受講生サイトに掲載した。

1. 北海道ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(北海道ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和2年9月1日(火)～9月3日(木)
研修会場 函館コミュニティプラザGスクエア イベントスペースB(北海道函館市)
現地実習 城岱国有林2098林班外(北海道亀田郡七飯町)

- 2 研修受講者数:12名 [男性:10名 女性:2名]
(道職員10名、森林管理局職員2名)

北海道	10名	森林管理局	2名
-----	-----	-------	----

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

- ・1日目は開講式の後、受講生は自己紹介カードを使って自己紹介を行った。工藤内部講師より「森林・林業の背景・現状に関する基礎知識」についての講義が行われ、嶋瀬外部講師から「木材需給・流通に関する基礎知識」についての講義が行われた。次に、長崎内部講師より、国有林での低コスト施業の事例の紹介があった。その後、各班ごとに机上で施業計画案の作成を行った。
- ・2日目は貸切バスを利用して、七飯町国有林へ移動し、現地演習を行った。研修スタッフよりスケジュール等の説明が行われた後、班ごとに分かれ、前日に作成した施業計画案修正のため、現地確認を行った。次に北斗市の谷口精光園へ移動し、コンテナ苗の生産現場の見学を行った。見学後は会場へ戻り、最終案に向けての検討を行った。
- ・3日目は各班ごとに発表・質疑応答を行った。発表後、嶋瀬外部講師らによる各班の施業計画案についての講評及び今後の留意点等の補足が行われた。講評を受けて、受講生より最終的な意見等を交換・共有を行い、当研修は閉講した。

○今回の研修の工夫

- ・施業計画案を検討する際、「計画の各項目(伐採・更新・保育)に、森林総合監理士として、どのように応えるか考える」との研修であることを1日目のイントロで説明し、受講生の思考の目合わせを行った。
- ・全天球カメラを受講生に使用させた(使用経験者が少なかったため関心が高かった)。
- ・施業計画案の考え方に唯一の正解は無いものの、複層林への誘導、造林コストの低減、木材需給・流通についても、施業案作成の際に考慮するよう導いた。

4 記録写真



嶋瀬外部講師による講義:1日目



グループワークによる施業計画の机上案作成:1日目



現地演習での机上案の確認・修正:2日目



コンテナ苗生産現場の見学:2日目



施業計画の修正と計画概要作成:2日目



検討結果の発表:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	特記事項なし。	○次年度以降も、研修テーマ(演習地)と講義内容が合致するよう検討する。
講義・演習	○予定時間を越えた講義があり、内容を含め検討が必要(少し詰め込みすぎた感あり)。	①講義内容については、外部講師との兼ね合いについても考慮する。 ②演習においては、「補助金」を考えずに検討することへの戸惑いの声が毎年度聞かれるため、次年度以降も、「森林総合監理士」の視点での研修であることを講義の中に盛り込む。
現地実習	○特になし(実習地と見学地への移動時間も程よく、実習に当てる時間を十分に取ることが出来た)。	○次年度以降も、移動時間を極力短縮し、現地確認や検討時間を確保する。また、トイレ休憩時間(場所)の検討を忘れないようにする。
その他	特記事項なし。	○次年度以降も、受講生への負担を減らす工夫(会場の設定や、交通機関、駐車場、現場用品の準備、宿泊場所など)をしていく。

(3)アンケート結果

回収率: 12名/12名 (100%)

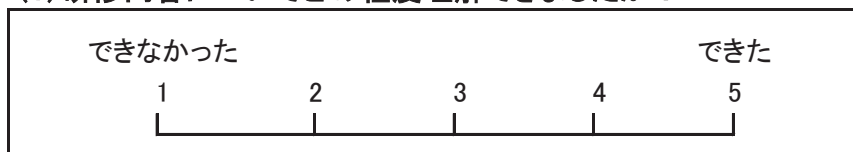
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (7 名)
- 2 : 資格なし (5 名)

II 本研修に対する理解度、活用度

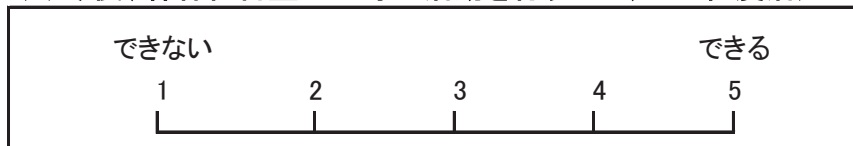
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 4.1

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名)
- 4 (7 名) 理解が足りない部分は資料で再確認したい／一部難しい部分もあったが理解できた
- 5 (3 名) 分かりにくい点は少なかった／かなり興味を引いて聞くことができた

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？



平均: 3.8

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 研修の前提条件が実態と異なる
- 3 (4 名) 全天球カメラを使った林況調査／考え方の補強ができた
- 4 (4 名) コンテナ苗、林産の情報などに活用／森林所有者への提案に活用できる
- 5 (3 名) 森林総合監理士に求められていること、心構えを再考する良いきっかけとなった

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

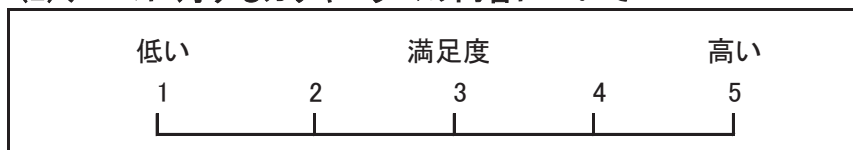
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 3.8

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 森林総合監理士の業務よりプランナーに近いと感じた
- 3 (2 名) 高齢級林分への対応は地域でも求められている
- 4 (8 名) 高齢級人工林は全道的に問題となっている／伐採と更新方法は最重要テーマ
- 5 (1 名)

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 3.7

- 1 (0 名)
- 2 (2 名) 国有林の事例を現地で見たかった
- 3 (2 名) 時間が少ない分、密度が濃く充実感があった
- 4 (6 名) 木材需要の知識が少なく講義はとても参考になった／実践すべき内容だった
- 5 (2 名) 一つの森林に対しても色々な見方があることを学んだ

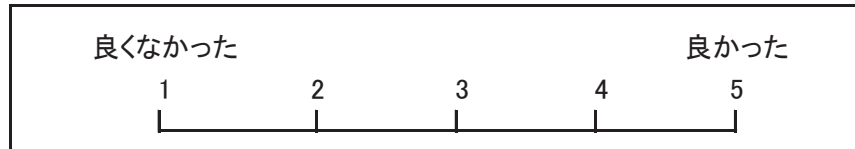
(3) カリキュラムの時間について



平均: 2.6

- 1 (1 名) 時間が少なく、現地も見きれないところがあった
- 2 (6 名) 木材流通の講義、グループ討議の時間が短い／質問時間が少なかった
- 3 (3 名) 時間が少ない部分もあったが3日間という内容ではちょうど良いと思う
- 4 (1 名) 適正だったと思う
- 5 (1 名)

(4) 研修の進行・運営の流れについて



平均: 3.7

- 1 (0 名)
- 2 (2 名) 色々気遣いを感じたが、後から補足することが多かった
- 3 (3 名) 進行役の方が丁寧で良かった
- 4 (4 名) 状況に応じた対応をしてもらうなどスムーズな流れで進行されていた
- 5 (3 名) 時間がない中でも進行がスムーズだった

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・各地で様々な経験を持っている方とお話する良い機会となった
- ・森林環境贈与税を導入すべき森林について今回の研修を通して見えてきたような気がした
- ・川中、川下のことを考え、川上をデザインする必要があると感じた
- ・森林総合監理士としての視点等について改めて認識したことが多くあった
- ・盛土地拵も見学したい。ドローンを活用した内容を加えてほしい
- ・全天球カメラの有効性は本研修の本題ではないので、3日目発表終了後、講評前に時間調整的に行って良いのではないかと
- ・国有林、道有林、民有林と3者の受講生でやってみてはどうか
- ・1泊2日で良いのでカリキュラムをしばって時間をかけてやったほうが良いのではないかと(現地調査、立木評価、プレゼン)
- ・事前に地域の現状を把握するよう通知されていたが、研修内で触れられなかった
- ・コストの話をするのであれば標準単価や簡単に積算できるようにすべき。そうではなくて、低コスト施業の事例を勉強するだけなのか。研修を始める際に目的(着地点)が説明されているがよく分からなかった
- ・遠方から参加する以上、フルに時間を使ってほしい
- ・全道での研修も大事かと思うが各地区での研修会を開催してほしい
- ・研修の実施時期は北海道庁の出席者側は厳しい時期(造林検査)だったので配慮してもらえるとありがたい

2. 東北ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(東北ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和2年9月2日(水)～9月4日(金)
研修会場 アイーナ いわて県民情報交流センター 会議室501(岩手県盛岡市)
現地実習 雫石町御明神荒沢山国有林735は1林小班外(岩手県岩手郡雫石町)

- 2 研修受講者数:13名 [男性:11名 女性:2名]
(県職員7名、市職員1名、森林管理局職員1名、民間事業者4名)

青森県	2名	岩手県	3名	宮城県	1名	福島県	1名
盛岡市	1名	森林管理局	1名	民間事業者	4名		

欠席者数 1名

3 研修実施概要

○2日目の現地踏査で天候を考慮した時間配分の調整を行ったが、予定どおりにカリキュラムを修了した。

○研修運営状況、受講生の様子

・1日目は、開講式で東北森林管理局東海林課長が挨拶を行った後、講義に先立ち中嶋企画官から研修主旨等の説明があった。岩手大学斎藤講師の講義では、近年の情報化技術を用いた路線配置計画について行われ、現地実習での森林作業道の配置図の作成を班ごとに検討・作成した。

・2日目は、実習地へ移動し、斎藤講師によるスマートフォン等を活用した現地踏査方法等の説明、操作確認を行った後に、各班で予定線形ルートを踏査した。

・3日目は、現地での踏査結果をもとにして森林作業道の配置図を作成し、所有者への説明を想定した発表を班ごとに行った。終了後、斎藤講師による講評・補足説明が行われ講義が終了した。その後、アンケートと振り返りシートの記入を行い、閉講式では、林野庁高麗課長補佐、東北森林管理局東海林課長から挨拶があり、記念撮影後、研修の全日程を終了した。

・全体としては、ほぼ時間通りに進行され、参加者間の積極的な質疑のある活発な研修であった。

・新型コロナウイルス感染症予防対策については、事前の検温シートへの協力のほか、注意事項による説明、会場内の各除菌対応等を行った。

○今回の研修の工夫点

・事前に当日の進行や利用施設についての確認と現地確認を行った。

・新型コロナウイルス感染症予防対策として、事前に掲示物や備品等の確認を行い備えた。

4 記録写真



講義「森林作業道配置計画の基礎知識」:1日目



現地に関わる資料や着眼点等の説明:2日目



演習「森林作業道配置図の作成等」:2日目



現地実習「森林作業道配置の現地検討～情報化技術を用いた現地踏査～」:2日目



森林作業道配置計画の発表:3日目



集合写真:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修 キテ キュ ラム ・ カ	①本研修を受講したうえで、自分の守備範囲をどうしていくかということを明確にさせたい。 ②林野庁担当者から、挨拶を開会式で行いたい(研修の目的を事前に説明したい)との要望があった。	①日々の業務に関連付けるなど、もっと興味を持たせられるように研修内容等を工夫していく必要がある。 ②研修スケジュールの見直しを検討する。
講義 ・ 演習	①受講生から、GISの操作時間がもっと欲しかったとの声があった。 ②班の作業パソコンを操作者一人が独占する状態になってしまう。	①日程の問題で、QGISの説明にはあまり時間が取れないため、受講生募集の段階で、ある程度QGISの知識があることを前提にした方が望ましい。 ②モニターを用意等、班全体でパソコン画面を見られるように工夫する必要がある。
現地 実習	①受講生から、現地実習の時間がもっと欲しかったとの声があった。 ②計画通りにすべて踏査できなかった班がみられた。	①今回は悪天候の影響もあり、現地実習の時間を1時間ほど早く切り上げたが、2泊3日の日程では、今回の予定時間以上は確保しにくい。 ②無理にすべて踏査する必要はないが、時間配分等も計画時点で考慮する必要がある。
その他	○コロナ対策について、グループワークでの距離が近くなってしまうことなど、対策が難しい点があった。	○グループワークの距離等は仕方ない部分ではあるので、マスクやフェイスシールドの着用の徹底や、こまめな消毒の徹底を引き続き呼び掛けることで対応を考える。

(3)アンケート結果

回収率:13名/13名(100%)

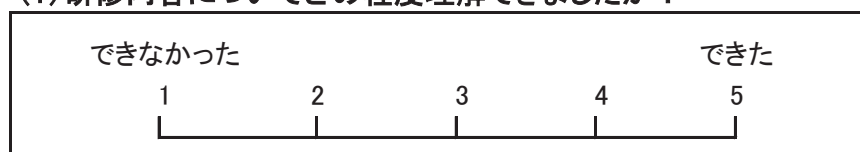
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (5名)
- 2 : 資格なし (8名)

II 本研修に対する理解度、活用度

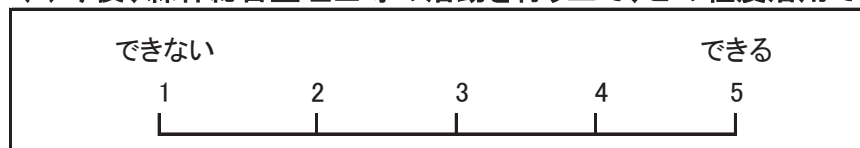
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 3.9

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (2名) ある程度理解したが、繰り返し勉強してさらに理解を深めたい
- 4 (10名) 道の考え方や便利なツールの紹介があり有意義だった／新しい技術が勉強できた
- 5 (1名) 作業量作設の考え方が理解できた

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？



平均: 4.1

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (1名) 市町村や森林組合への説明に利用したい
- 4 (9名) 路網計画の審査・指導に活用できる／省力化につながる技術で広く普及したい
- 5 (2名) GISを活用すれば通常業務の幅が広がると感じた

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

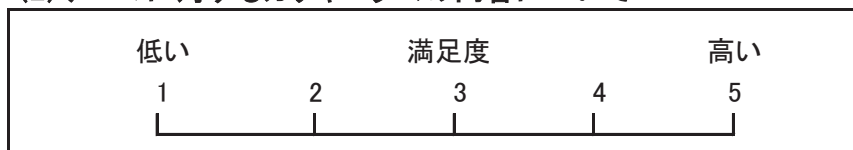
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.1

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 災害発生リスクや収益を考慮する必要性を考えさせられたよい研修だった
- 4 (9 名) 現場で求められるタイムリーなテーマ/データとデバイスの併用は説得力がある
- 5 (2 名) 路網のことを学びたかったのでありがたかった/地形の見方への理解が深まった

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) 現地の時間をもっと増やしたらさらによい
- 4 (9 名) これまで活用したことのないソフトについてとても勉強になった
- 5 (3 名)

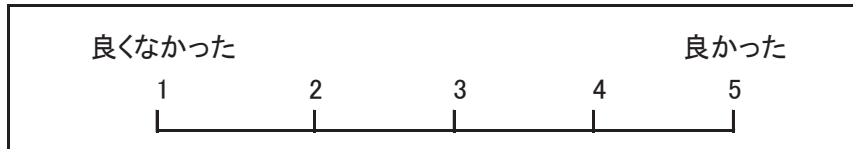
(3) カリキュラムの時間について



平均: 3.8

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (3 名) 現地の時間がもう少しあるとよい
- 4 (9 名) ちょうどよい/もう1日あるとQGISに関する内容が充実すると思った
- 5 (1 名)

(4) 研修の進行・運営の流れについて



- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 適切だった
- 4 (4 名) スムーズな進行・運営だった
- 5 (7 名) 大変良かった

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 開設場所の検討の大切さを学んだ。災害の起きにくい、使いやすい作業道の開設に役立てたい
- ・ 地山の可視化のデータが路線選定に非常に有効なツールだと感じた
- ・ 林業業務経験と知識が浅く不安だったが、非常に理解しやすく吸収しやすい内容であり楽しく受講できた
- ・ とても興味深く学ばせていただいた。Avenza Mapsなどは、関係職員へ広く情報提供し、普及するべきだと感じた
- ・ GIS活用前提であれば、ある程度GISの話と合わせてやった方が更に実務的な研修になると思う
- ・ QGISやAvenza Maps等を利用した森林調査をメインにした研修を検討してほしい
- ・ ドローンを活用した技術研修を希望したい
- ・ 航空レーザーの有効性は認識していたので、広く一般（市町村等）にも知られるよう、研修を続けてほしい
- ・ 森林総合監理士の活躍の実務的な展開・方法の具体化が必要ではないかと感じた（林政アドバイザー業務など）

3. 関東ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(関東ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和2年10月14日(水)～10月16日(金)
研修会場 利根沼田文化会館(群馬県沼田市)
現地実習 利根郡昭和村赤城山第2国有林159い4林小班外(群馬県利根郡)

- 2 研修受講者数:9名 [男性:9名]
(県職員3名、森林管理局職員1名、民間事業者5名)

埼玉県	1名	神奈川県	1名	山梨県	1名	森林管理局	1名	民間事業者	5名
途中欠席者数 0名									

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は、開講式・オリエンテーションの後、岡講師による「シカの生態と被害の現状」、並びに飯島講師より「捕獲と密度管理」・「防除対策事例とコスト」の講義が行われた。

・2日目は、貸切りバスで赤城山第2国有林へ移動し竹之内局講師より現地演習を行った。また、当日捕獲したシカの個体観察やとめさし器具の使用方法などの説明を行った。その後、3班に分かれ対象林分を踏査し「シカ被害対策全体構想」の検討を行った。午後は研修室へ戻り、飯島講師よりプレゼン資料作成に関する林分状況の解説・補足及び計画シミュレーション(各班にPC1台用意、Excel作成)についての説明が行われた。その後、現地演習の踏査結果を基に、班毎に現況とシカ捕獲、防除対策、モニタリングの実施の有無や方法を検討し、発表資料の作成を行った。

・3日目は、前日に作成した「ニホンジカ被害対策全体構想」について班毎に発表とディスカッションを行った。最後には、各外部講師より講評があり、主伐再造林を実施するにあたり、シカ被害対策への知識・技術等の習得と科学的知見に基づき各関係機関と連携し効率的な森林管理を行っていく事が重要であると述べられた。

・全体としては、現地演習やグループワークで班内受講生同士のコミュニケーションが良く取れスムーズに研修を進めることができ、講義・演習共に質問等が活発に行われた。

○今回の研修の工夫点

・現地演習地図等を模造紙サイズに拡大印刷し、講義及び現地演習で受講生に理解しやすいよう掲示した。

・現地での演習時間を長く確保するため演習地での昼食とした。

4 記録写真



岡講師による「被害対策全体構想」に関する講義:1日目



現地実習(シカ被害の調査方法と行動特性観察):2日目



現地実習(シカ捕獲個体の観察及びとめさし方法説明):2日目



踏査結果による計画シミュレーション作成の様子:2日目



発表準備のグループワークの様子:2日目



現況の判断とシカ捕獲、防除対策、モニタリングの実施方法の検討についての発表風景:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	①3日間(実質2日)の研修では短いと言う意見があった。 ②研修時間の効率を考慮し、事前学習実施の可否について意見があった。	①3日目の終了時間延長等も検討する。 ②事前学習の実施について検討する。
講義・演習	①2日目演習時の計画シミュレーション作成に時間がかかり過ぎた。 ②意見や質問が多く休憩時間を省略した場面があった。	①計画シミュレーションの簡素化を検討する。 ②質問時間等の時間配分を検討する。
現地実習	特記事項なし。	特記事項なし。
その他	○研修全体のふりかえり(最終日のふりかえりシート)はあったが、3日目の研修のふりかえりシートがないため、各班の発表などに関する意見や感想がないという意見があった。	○3日目のみの「ふりかえりシート」を検討する。

(3)アンケート結果

回収率:9名/9名(100%)

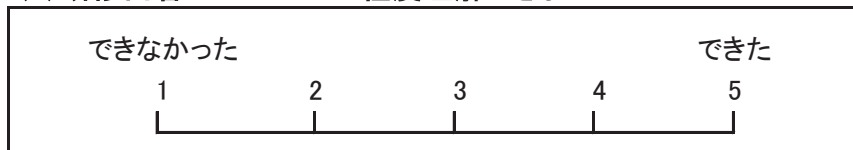
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (2名)
- 2 : 資格なし (7名)

II 本研修に対する理解度、活用度

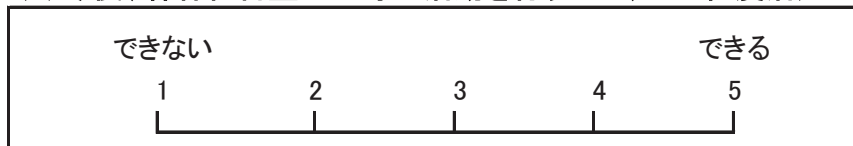
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 4.4

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (0名)
- 4 (5名) シカ対策の重要性がよく分かった/生態、対策、試験など多くを学べた
- 5 (4名) 講師陣の話は分かりやすく質問に対する回答も明確だった

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？

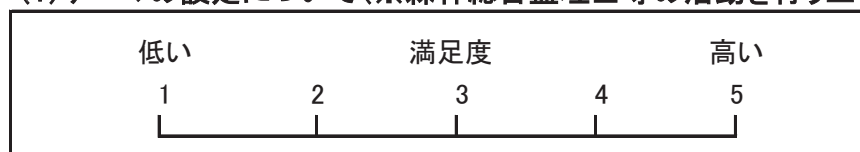


平均: 4.1

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (2名)
- 4 (4名) 森林総合監理士として知識の補強ができた/今後の森林組合指導等に役立てたい
- 5 (3名) 各種事業へ活用できると思う

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

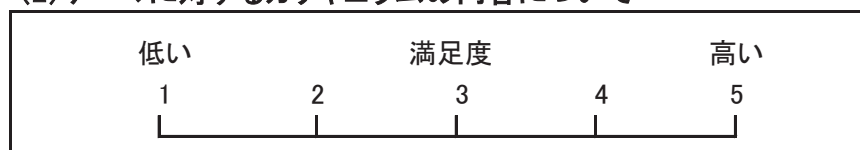
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.7

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (3 名) シカの問題は適切だった／説明の仕方が分かりやすく簡潔だった
- 5 (6 名) 近年の重要な課題である／これからの林業には必要な知識

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 4.4

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (5 名) 実践的な内容でよかった／順序よくまとめられていた
- 5 (4 名) 分かりやすく様々な箇所での応用が効きそう

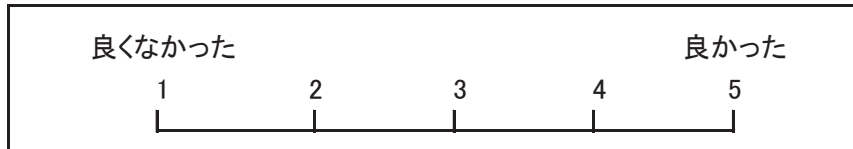
(3) カリキュラムの時間について



平均: 4.2

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 適切だった
- 4 (3 名) 内容が充実し時間配分も負担が少なく良かった
- 5 (4 名) ちょうどよい

(4) 研修の進行・運営の流れについて



平均: 4.4

1 (0 名)

2 (0 名)

3 (1 名)

4 (3 名) カリキュラムに記載された内容が全てできたので良かった

5 (5 名) スムーズで特に問題ないと思われる／グループ討議が活発にできた

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 大変楽しく有意義な研修だった
- ・ 電動一輪車は色々なことに役立ちそう
- ・ シカの獣害被害の決定的対策、シカの生態系を詳しく説明してほしい
- ・ 重要な問題は常に出てくるので、今後も色々な情報を提供してもらいたい
- ・ 各者(国、県、民、団体)の現状や動向について事前に知ることができたらよかった
- ・ あらかじめ研修資料を送付していただければなおよかった

4. 中部ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(中部ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和2年9月16日(水)～9月18日(金)
研修会場 中津川市にぎわいプラザ(岐阜県中津川市)
現地実習 湯舟沢国有林2206い林小班外(岐阜県中津川市)

- 2 研修受講者数:12名 [男性:10名 女性:2名]
(県職員10名、森林管理局職員1名、民間事業者1名)

福島県	1名	静岡県	2名	岐阜県	3名	愛知県	1名	滋賀県	1名
和歌山県	1名	奈良県	1名	森林管理局	1名	民間事業者	1名		

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

- ・1日目は欠席・遅刻なく集合し、川戸英騎森林整備部長の挨拶の後、伐採・造林一貫作業システム、採材・仕分けの講義や伐採計画の演習などを行った。
- ・2日目は、現地到着時に小雨が降っていたが、その後は降雨もなくスムーズに現地研修が進められた。伐採・造林一貫作業システム計画箇所の現地検討後、木曽官材市売協同組合において採材・仕分け流通について講義と土場の視察を行い、研修会場に戻り発表準備をまとめた。今年も3日間を通して班ごとに専属の講師がついたことから、細やかな指導を受けることができた。
- ・3日目は、各班の発表に対し活発な意見交換や質問等が行われた。発表後の講師陣からのフィードバックも行われ、短時間ながら充実した内容となった。
- ・全体としては、研修時間が短い中でも内容の濃い研修が行われた。受講生は、健康状態等問題なく全員が最後まで受講することができた。コロナ禍の中だったが、ソーシャルディスタンスを保ちながら、受講生同士の交流やコミュニケーションが積極的に取れていた。

○今回の研修の工夫点

- ・コロナ禍のために研修会場の貸し出し許可がおりず、2箇所会場を仮予約した。最終的には会議室の変更はあったものの、第1希望の研修会場を借りることができた。
- ・会場及び移動時において、コロナ感染防止及びCSF(豚熱)対策の実施と、参加者への注意喚起を行った。また、フェイスシールドも配布し、机上演習等でも対策を行った。

4 記録写真



開講式: 1日目



演習の様子: 1日目



現地検討、伐採・造材の一貫作業: 2日目



現地検討・市場視察: 2日目



発表の様子: 3日目



集合写真: 3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修 キ テ レ ラ マ ム ・ カ リ	○パソコンが各班1台のため、情報共有が難しい	○予算の関係もあるが、モニターの設置や印刷物の配布などが考えられる
講 義 ・ 演 習	①ドローンを使ったデータがあると理解しやすかった ②架線集材を実際に見た人が少なかった ③伐造一貫作業を実施している業者の話を知るとよかった	①編集等作業に時間がかかるが検討する ②映像があれば準備したい ③研修時期に施業している業者がいれば依頼していきたい
現 地 実 習	特記事項なし。	特記事項なし。
そ の 他	○空調機器の音が大きく気になった	○コロナ感染・対策の状況によっては昨年度までの部屋の使用を検討したい

(3)アンケート結果

回収率:12名/12名(100%)

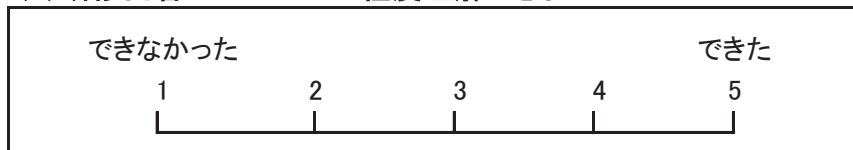
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (6名)
- 2 : 資格なし (6名)

II 本研修に対する理解度、活用度

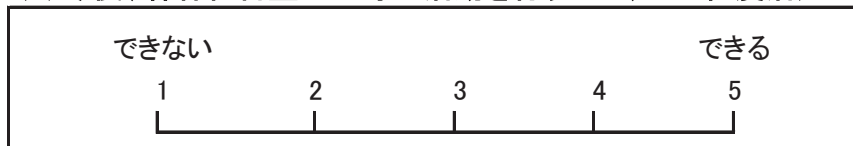
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 3.8

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (3名) 架線集材について何の知識もなかったが、講師の方がていねいに教えてくれた
- 4 (8名) 主伐・再生林の基本を理解することができた／架線計画の立て方なども理解できた
- 5 (1名) 時間配分が良く落ち着いて学べた

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？



平均: 4.1

- 1 (0名)
- 2 (1名)
- 3 (2名) 索道による集材の知識がなく、事業者との施業方法検討の引き出しが増えた
- 4 (4名) 平均勾配の算出方法は現場で活用できる／どのような情報が必要かイメージできた
- 5 (5名) 架線現場の設計指導・巡回指導に活用できる／架線系を選択肢にできる

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

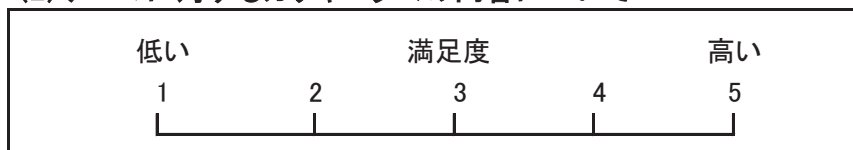
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.1

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名) 架線システムの一環施業をもう少し掘り下げてほしい
- 4 (7 名) 馴染みのない架線集材を体験できて良かった／造林経費の削減面からも良かった
- 5 (3 名) 販路まで見据えた一環施業は地元でも要望が多く非常にありがたかった

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 3.8

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (6 名) 設計はとても勉強になった／一貫施業に取り組んでいる事業体の話が聞きたかった
- 4 (3 名) 講義→演習→実習→発表の形式が良かった／架線の基本を習得後、演習したかった
- 5 (3 名) 短い日数での厳選された内容だった

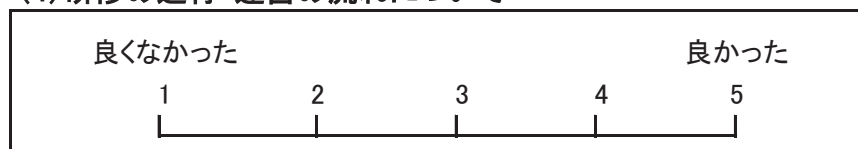
(3) カリキュラムの時間について



平均: 3.8

- 1 (0 名)
- 2 (1 名) 検討内容が多く、3日間では理解しきれない部分もあった
- 3 (3 名) 現場での作業手順を写真・動画で紹介する時間を中心に配分してほしい
- 4 (6 名) 少し短い気がするが参加しやすく集中できた／発表準備の時間をもう少し長く
- 5 (2 名) 現地検討の時間が十分とられていたのが良かった

(4) 研修の進行・運営の流れについて



- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名) とても良かった
- 4 (5 名) 各班に講師の方が専任でついていただいたのがとても良かった
- 5 (6 名) コロナ対策を取りながらもスムーズに受講することができた

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 2日目の現地検討は今後の役に立ちそうで、非常に良かった
- ・ 講師から架線集材、販売について、きめ細かなアドバイスをいただいた
- ・ 1班に1人講師がつき、質問しやすかった
- ・ 発表、意見交換は様々な意見が出て良かった
- ・ 今後もこのような研修に定期的に参加したい
- ・ 様々な点でコロナ感染防止対策に配慮いただいた
- ・ 受講生同士で意見交換する時間をもっと設けてほしかった
- ・ コスト計算をカリキュラムに加えてほしかった
- ・ 計画と実行で変わった点、工夫した点が良い計画を立てるためのノウハウになるため、既施業地についての計画内容と実行者(受注者)の感想・意見をまとめた方が良いと思う
- ・ ドローンによる苗木運搬などが実用化できそうなので、研修で取り上げてほしい
- ・ 集材方式や用語(器械の名称)などの資料があるとありがたかった

5. 近畿中国ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(近畿中国ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和2年9月8日(火)～9月10日(木)
研修会場 岡山県新見市高尾 新見商工会館 会議室(岡山県新見市)
現地実習 古谷国有林527林班(岡山県新見市大佐上刑部)

- 2 研修受講者数:9名 [男性:8名 女性:1名]
(府県職員5名、森林管理局職員2名、民間事業者2名)

京都府	1名	兵庫県	2名	岡山県	2名	森林管理局	2名	民間事業者	2名
途中欠席者数 0名									

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

- ・1日目、林野庁中村対策官の挨拶の後、オリエンテーション、ガイダンスを経て、森林管理局講師による「今後の森づくりの考え方について」、外部講師による「多様な森林づくりの構想について」の講義が行われた。「現地検討の進め方及び発表の取りまとめ方」の説明の中では、明日の現地検討地について、ドローンによる映像を使い説明を行った。その後、各班で机上での調査、検討を行い、1日目の研修を終えた。
- ・2日目、古谷国有林へバスで移動し、現地の概況説明の後、最初の1時間は全員で踏査し、後半は各班に分かれて各々の調査ポイントを調査した。昼食後、「天然力を活用した森林づくりの踏査」を行い、質疑応答の後、帰路についた。研修会場では、各班持ち帰った情報を共有、とりまとめをし、明日の発表の準備を行った。
- ・3日目、日程説明の後、各班で発表の準備を行った。発表は一班から発表し、質疑応答が活発に行われた。最後に講師陣による講評の後、閉講式が行われ、研修の全日程が終了した。
- ・全体としては、スムーズな進行となった。新型コロナウイルス感染症の影響で参加者が少なかったが、全員が作業に参加し活発に意見を述べるなど、充実した研修となった。

○今回の研修の工夫点

- ・現地踏査の際、最初に全員で歩き現場の状況、概況を共有・把握することができた。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、体温計を設置し、会場入室時に検温、記録した。また、各テーブルに消毒液、除菌ウェットシートを置き、研修終了時には机や椅子などの除菌を行った。

4 記録写真



ドローン撮影映像による説明:1日目



外部講師による講義:1日目



現地検討 概況説明:2日目



現地検討を踏まえたグループ討議:2日目



発表・意見交換 1班発表:3日目



発表・意見交換 2班発表:3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修テーマ・カリキュラム	<p>①発表がKP法で行う必要はあるか。パワーポイントに慣れている人の方が多いので、そちらでもよいのではないか。</p> <p>②山林所有者への説明を想定した発表ならば、所有者が一番知りたい情報はいくら収入が得られるかということになる。そのことについての材料が少ない。</p> <p>③広葉樹についての情報が少ない。</p>	<p>①パワーポイントの場合も検討する。</p> <p>②材価表などの資料を提示する。</p> <p>③広葉樹に関する資料を提示する。</p>
講義・演習	<p>○新型コロナウイルス対策で、受講生の間隔を全て2メートル開けて机の島を大きくしたことで、5人班の場合、一人が離れる形となり話に参加しにくくなった。</p>	<p>○班付講師による誘導で解消された。</p>
現地実習	<p>①天然力を活用した森づくりの説明箇所、ヤードが狭く、一班ごとの説明となり、班それぞれでの質問を共有できなかった。</p> <p>②踏査の際、今どこにいるか分からない受講生がいたのではないかと。もう少し分かり易くした方がよい。</p> <p>③踏査箇所の成長データなど、資料を配布したほうが良い。</p>	<p>①全ての班がそろった時点で質疑応答を行い、共有できるようにする。</p> <p>②持って歩く図面にポイントを落とし、現地でも場所が分かるようテープなどで印を付ける。班ごとにモバイルマップを携帯させる。</p> <p>③27年までの成長データを提供する。</p>
その他	<p>○研修資料に通し番号を記載してほしい。</p>	<p>○全ての講義資料に通し番号を入れるには、資料の作成者が異なることで印刷のタイミングがずれることや、印刷時間に余裕がない場合は、難しい。図面にも資料番号を入れることで、参照箇所・頁を指定しやすくなるよう徹底する。</p>

(3)アンケート結果

回収率:9名/9名(100%)

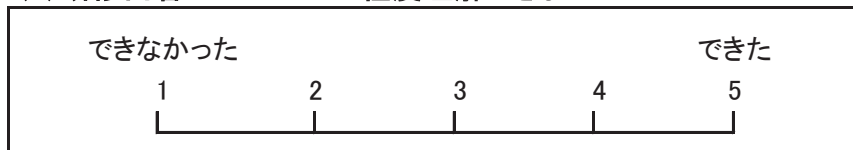
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (2名)
- 2 : 資格なし (7名)

II 本研修に対する理解度、活用度

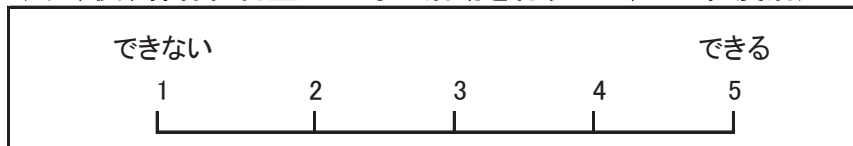
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 4.0

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (1名)
- 4 (7名) 現地ですぐに実物を見て説明を受けることができる等理解が進みやすかった
- 5 (1名) どの講義も大変分かりやすく勉強になった

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？



平均: 4.0

- 1 (0名)
- 2 (0名)
- 3 (1名) 直接すぐの活用はないが、今後はあると思う
- 4 (6名) 新たな森林管理システムの候補地等検討を行う際に活用していける
- 5 (1名) 学んだことをより深めて、現場に生かしていきたい

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

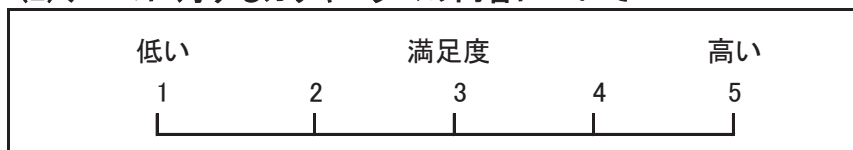
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 4.4

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (5 名) 表題だけではイメージがしづらかったが、活動に活用できる内容だった
- 5 (4 名) 地位の違いがよく分かる現場で、地位の違いを実感できた

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 4.3

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (1 名)
- 4 (4 名) 木材の販売価格を検討し所有者への収入の提案ができれば良かった
- 5 (4 名) 山づくりの今後を考える上で非常に参考になった

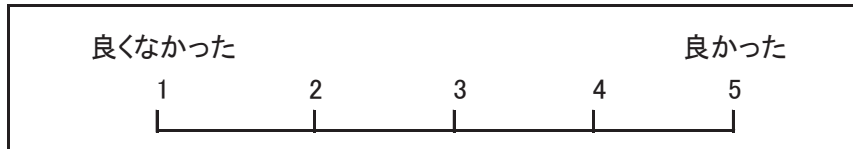
(3) カリキュラムの時間について



平均: 4.1

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (2 名)
- 4 (4 名) 一歩進めた提案をする場合は、時間が不足するかもしれない
- 5 (3 名) 短い時間の中でも濃い内容だった／ちょうど良かった

(4) 研修の進行・運営の流れについて



平均: 4.9

- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (0 名)
- 4 (1 名)
- 5 (8 名) 説明が丁寧／間延びせず、メリハリのあるスムーズな進行が参考となった

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 広葉樹林化について様々なお話を聞くことができ、とても勉強になった
- ・ 様々な立場の人からの話や話し合いの場を通して大変刺激となった
- ・ 森づくりについて科学的に検討でき、今後の業務に生かせる知識や情報を多く学べたので、参加して良かった
- ・ 森林総合監理士の資格を有していないため、来年は受験しようと思う
- ・ 広葉樹の需要先等の話が聞けると良い
- ・ 市町村の林務担当との意見交換があると良い。研修にも参加してもらいたい
- ・ 新型コロナウイルスの影響で、意見交換の場が持てないことが残念だった

6. 四国ブロック

(1)実施報告書

実践研修 実施報告書(四国ブロック)

- 1 日程・研修場所 令和2年11月11日(水)～11月13日(金)
研修会場 四国森林管理局会議室(高知県高知市)
現地実習 島ノ川山国有林3229林班外(高知県中土佐町)

- 2 研修受講者数:16名 [男性:16名]
(県職員4名、町職員1名、森林管理局職員4名、民間事業者7名)

奈良県	1名	愛媛県	1名	福岡県	1名	大分県	1名	上勝町	1名
森林管理局	4名	民間事業者	7名						

途中欠席者数 0名

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

・1日目は開講式後、砂田講師((株)サイプラススナダヤ)から動画によるCLTを中心とした製品需給状況の説明があった。その後、局駐車場内に設けたエンドレスタイラー式集材模型による研修とGISによる架線設計等についての講義が行われ、それらを基に各班が搬出系統図作成の演習準備を始めた。

・2日目は採材研修及び搬出系統等の資料作成に向け、実際に間伐施業を行っている島ノ川山国有林で現地実習を行った。採材研修は、経験豊富な受講生が多かったことから、急遽、各班2本づつの採材検討に変更した。現地実習終了後、会場に戻り、搬出系統等の資料作成作業を行った。

・3日目は前日の現地実習を踏まえ、班ごとに集材架線システム等の関連資料を作成後、発表・質疑応答と続き、全てのカリキュラムを終了した。

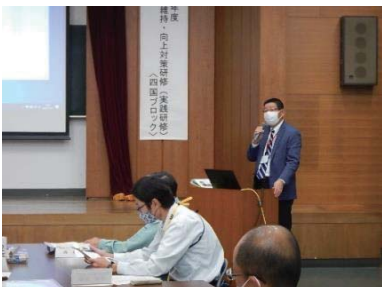
・全体としては、過年度と同じ2泊3日の日程の中で、前年の実績と改善を基にしたカリキュラムとすることで、実務への寄与度がより大きくなった内容であった。

○今回の研修の工夫点

・昨年、受講生の関心が高かった砂田講師の講義時間を30分延長し、活発な質疑応答が行われたことで、広範なCLT情報等が提供できた。

・各班の発表方法をKP法からパワーポイントでの発表に変更され、より技術水準の維持・向上につながった。

4 記録写真



砂田講師のCLT等川下状況説明:1日目



エンドレスタイラー集材模型による研修:
1日目



生産現場における採材研修:2日目



ダブルエンドレス方式集材架線の先柱での説明:2日目



現地確認を経て集材架線システム作設演習:3日目



各班作成の集材架線システム発表状況:
3日目

(2)運営改善報告

研修に同行した運営補助者の所感、研修後のミーティングから問題点、改善策を取りまとめる

項目	問題点	今後に向けての改善策
研修 キ ュ ー ラ マ ム ・ カ リ	特記事項なし。	特記事項なし。
講義 ・ 演習	○各班の演習パソコンに入れておくべきデータが入っておらず、演習が中断する場面があった。	○限られた時間内で演習がスムーズにできるよう、データ準備に抜けがないようにする。
現地 実 習	○現地実習地が変更になり、現地までの移動時間(往復約4時間)が長いことから、研修日程内でのカリキュラム実施がタイトになった。	○2泊3日の日程が受講生も参加しやすいことから、現地実習地に近い場所で研修を実施することも検討。今年度と同じ会場で次年度も実施する場合は、近傍の貯木場で川下側を関連付けた採材研修を実施する等、研修日程と合致したカリキュラム内容を検討する。
その他	○現場等の経験が豊富な受講生が多く、また、年齢・経験年数等の幅が広がったため、演習説明などで標準をどこに設定するか等、外部講師・内部スタッフ・運営側も対応が難しかった。	○受講生募集の段階において、本研修対象者(経験年数等)を具体的に示すことを検討する。他方、講師レベルの経験豊富な受講生の存在が、他の受講生にとって新たな情報及び経験習得といったメリットもあった。

(3)アンケート結果

回収率: 16名/16名(100%)

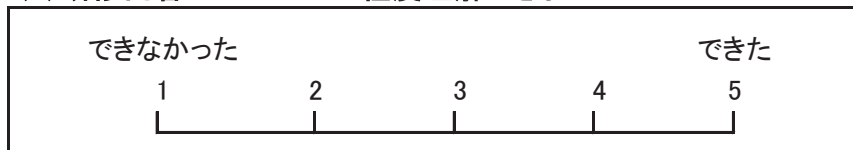
I 森林総合監理士資格の有無

(1)森林総合監理士資格の有無

- 1 : 森林総合監理士 (3名)
- 2 : 資格なし (13名)

II 本研修に対する理解度、活用度

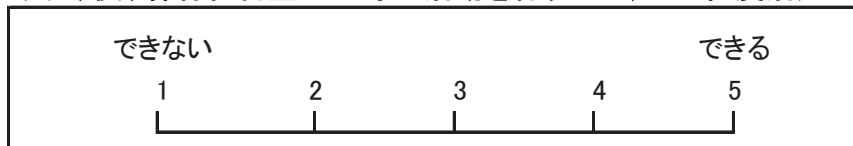
(1)研修内容についてどの程度理解できましたか？



平均: 3.3

- 1 (0名)
- 2 (2名) 理解はできるが活用としては難しかった
- 3 (8名) 搬出の計画は難しかったがとても勉強になった／設定を明確にしてもらいたい
- 4 (5名) 架線設置計画の概要を理解することができた
- 5 (1名)

(2)今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？



平均: 3.3

- 1 (0名)
- 2 (3名) 森林経営計画の計画立案に一部参考にできる
- 3 (6名) 架線集材が必要な区域において指導ができる／業務内でコストを気にしていきたい
- 4 (5名) 間伐・皆伐を発注、施行する機会に集材手法を考え応用していきたい
- 5 (1名) 大いに役立つ

Ⅲ 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

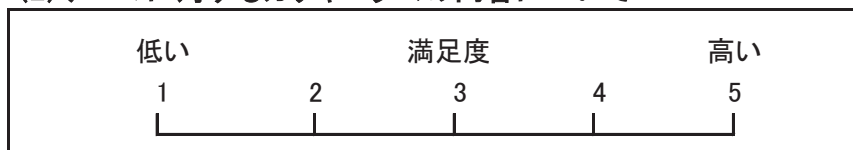
(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)



平均: 3.7

- 1 (0 名)
- 2 (1 名)
- 3 (6 名) 山での作業計画を立てていく中で大切だと思う
- 4 (6 名) 急峻な奥地人工林対策として有効/木材生産の実践を考えるうえで役立つ
- 5 (3 名) 実践できる内容だと思った

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について



平均: 3.6

- 1 (0 名)
- 2 (1 名)
- 3 (7 名) 実際の現場が見られて良かったが遠かった/現場の時間がもっと取れるとよかった
- 4 (5 名) 現場指導に活用できる内容だった/現場の考え方等を聞くことができ刺激になった
- 5 (3 名) 現場も見ることができて良かったと思う

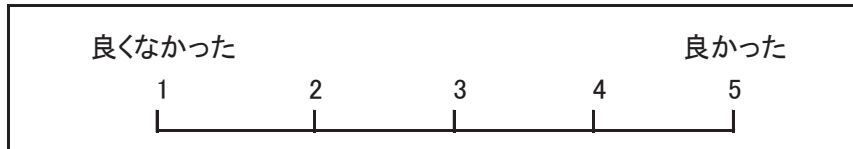
(3) カリキュラムの時間について



平均: 3.6

- 1 (0 名)
- 2 (3 名) 移動時間が長く、研修も詰め込み過ぎている気がした
- 3 (3 名) 現地実習がある場合の移動時間・方法について検討が必要ではないか
- 4 (8 名) 短い期間でも濃密な内容だった/発表に向けた検討時間がもう少しあってもよい
- 5 (2 名) 現地実習も予定されていた時間通りに進んだと思う

(4) 研修の進行・運営の流れについて



- 1 (0 名)
- 2 (0 名)
- 3 (6 名) 良かった／パソコンへのデータ取り込み等は先にしてほしかった
- 4 (3 名) 1日目はついていけなかったが2日目からは実際の演習ができて良かった
- 5 (7 名) スムーズに行われていた／フォローも細かくしていただけて良かった

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

- ・ 行政、民間の合同開催は非常に刺激になった
- ・ 生の意見が聞けて大変良かった
- ・ 現地実習において講師等の生の声を聞くことができ、現状をふまえて大変参考になった
- ・ 若干、専門的すぎる内容もあったと思うが実践的な研修になったと思う
- ・ 同じ班の人に様々なことを教えてもらいありがたかった。実際に仕事をしている人の考え方や言葉には力がある。他の班の人と交流できなかったのが残念だった
- ・ 班内のパソコンをもう少し多くしてはどうか
- ・ 現地実習地までが少し遠いと思った

Ⅲ. 主な意見と課題の整理及び総括

1. 外部講師の主な意見

今年度の研修内容、時間等に関し、外部講師から寄せられた主な意見を整理したものである。

意見等
1. 研修目標に見合った研修内容となっていましたか(受講生の印象、講師を担当しての感想を含む。)
研修目的に見合った研修内容になっていたと思う。 受講生の印象は、初対面の人たち同士で編成された班で、互いに打ち解けるまでにはそれ相応の時間が必要だが、グループ演習の開始後、ただちに役割分担が決まり、実質的な議論が始まり驚いた。課題であった施業案作成についても、班ごとにそれぞれが個性を有しつつも説得力のある計画が制限時間のうちに完成し、能力と意欲の高さを感じた。木材産業と木材市場(マーケット)の歴史を追ってきた講義は、「基礎知識」を謳いながらも、おそらくかなり個人的な内容であったと自認しているが、なぜそのような変わった話をするのかということについても、理解をしている手応えを感じた。
おおむね合っていた。
受講生の年齢層、所属等が昨年度の状況から予想していたものと違い最初は戸惑ったが、受講生の様子を見ながら引き込むことができ、全日程を完遂できた。また、座学、フィールド、グループワークとうまくつながっており、昨年度よりも洗練されていたのではないかと。
研修内容は適切だったと思う。講義、現地での確認、それを踏まえた演習という順序は、目的達成のために効果的だと思う。
昨年度と比較すると、すでに現場での実務経験がある受講生が多かったこともあり、現場で直面している問題について解決方法を得るため、質問や議論の方向性がより具体的だったのが印象的だった。一方で、シカ密度が非常に低い地域からの受講生は、シカの生態や行動特性に関するより広い知識を欲しているようだった。 今年度は多様なバックグラウンドをもつ受講生に最初は正直驚いたが、外部講師陣が現場での実践があるため、受講生のニーズに応えられたと感じた。
目標に見合った内容だった。受講生も活発に質疑をしていたので、興味を持ってもらえる内容と構成だったと思う。
個人的な反省点は、もう少し説明を分かりやすく話したらよかった。受講生に熟練者が多く、熟練者の目線で話が進んでしまい、分からなかった受講生が多かったと感じた。 研修内容は、架線を張っている現地より、これから施業する箇所、または施業が終わった箇所の方が各班の意見も違ってくるのではないかと考えた。
受講生の中に熟練者がいたことでスムーズに研修を進めることができた。また、その熟練者に引っ張られるように全員が意識高く受講できたのではないかと。ただし、中には進行が速すぎてついていけない受講生がいたのではないかと。

<p>2. 講義時間、実習現地等の設定は適切でしたか</p>
<p>意見等</p>
<p>もう少し余裕を持たせた方が受講生も運営側も楽ではないかと感じたが、時間当たりの研修効果を最大とする観点からすれば適切だったと思う。日程からみて詰め込みすぎの印象を持っていたが、受講生に十分な能力と意欲があったことで、それぞれの講義や実習に含ませられた意図や目的がしっかり受け止められており、消化不良に陥ることもなく、十分な研修効果があったのではないかと感じている。運営側に、長年の経験を通じて、受講生の能力や意欲についての見極めがしっかりできていたため、このような高密度・高レベルの研修が実現したものとする。</p>
<p>適切であったが、雨の場合、現地踏査が困難になるので対応方法を検討する必要がある。</p>
<p>適切だったと思う。講師陣からの講評の時間は事前にそれぞれが担当する時間を割り振って調整しておくべきだったと反省している。</p>
<p>おおむね適切だったと思う。ただ、最終日のスタッフミーティングで指摘があったように、エクセルのシミュレーションについては、操作性を向上させるなどして、作業にかかる時間を減少させる改善が必要だと思った。</p>
<p>講義時間と現地実習の時間は適切だったと思う。 グループワーク中、作業時間の配分が難しかったようだった。進行状況の確認をもう少し頻繁にするとよいかも。現地実習時に感じたのが、グループワークでの具体的な作業が把握できていないことだった。最終日のスタッフミーティングで話が出たが、例えば、1日目の講義で具体的な手順について説明し、2日目の現地実習の時に、現地調査と並行してグループワークでのまとめ方の方向性をグループ内で相談してもらおうということ、各班について講師が促す必要があるかもしれない。</p>
<p>受講生からすると、グループワークの時間が短いように感じられたかもしれない。最終日のスタッフミーティングで話があったように、グループワークで取り組む内容を事前に具体的に伝え、研修前にエクセルファイルを送付し慣れておいてもらうなどすると良いのではないか。</p>
<p>講義時間等は適切だと思う。ただ、実習現地等が少し遠かったのではないかと感じた(移動によりスケジュールがずれ込む)。</p>
<p>全体的にスムーズに進み、今回の形式であれば講義時間に関しては最適であったと思う。 研修場所についても、各班が広くスペースを確保できたので、時間、場所ともに最適であったのではないか。</p>

3. その他、お気づきの点や改善点等がありましたらご記入下さい

意見等

主催者・受講生にとっても、これ以上の研修日数は難しいと思うので、その制約の中では十分な研修効果が得られていたと感じている。受講生・主催者ともに、意識・練度が高く、スポーツ競技の強化指定選手向けに行われる強化合宿の趣を感じた。

各年度、研修にテーマが設定されることを少し不思議に感じていたが、研修に参加し、テーマが設定されていることがよく理解できた。今年度に関しては、時機を得た、適切なテーマであったと思う。次回以降、どのようなテーマになるのか楽しみだし、もし次回以降も機会があれば、自分もそのテーマをきちんと意識した講義内容にしていきたいと思う。

自分の反省として、元々タイトなスケジュールなので、講師が講義時間を厳守することが重要と感じた。

研修のテーマ設定の段階から関わっていないので何とも言えないが、どのようなニーズがあって内容を設定したのかが分からない。テーマの路網といってもニーズは様々であり、講師に内容を丸投げしている感もあり、いつまで誰を対象に行うのかよく分からない。全体として研修の整合、統合が必要ではないか。

受講生が感じている課題解決につながることを本研修に期待していると思うので、研修時間が限られる中だが、現在感じている課題や取り組んでいることについて発表してもらい、情報共有するのも良いのではないかと思った。

今回は経験値の高いベテランの受講生がいたことでスムーズに進めることができたが、その方々がいなかったと仮定すると、時間に余裕は生まれていなかったと思う。

研修の目的として、経験が少ない等の現場未経験者が理解を深められたのかどうかは不安が残るものだった。どちらが正しいか判断が難しいとは思いますが、今後の課題ではないか。

2. アンケート結果の概要(ブロック別)

アンケートは受講生全員を対象とし、研修成果の確認と今後の研修運営に役立てることを目的に実施した。本研修に対する理解度、役立ち度、全体の満足度、運営評価について、ブロック別の集計結果をグラフ化し、そのうち、「森林総合監理士資格の有無」、「研修内容の理解度」、「業務への活用度」、「テーマ設定の満足度」についてはブロックごとに詳細結果を取りまとめた。

なお、ブロックごとにテーマ、カリキュラムなどが多様であるため、ブロック別の結果を示しているが、ブロック間の単純な比較ではなく、ブロックごとの傾向や課題の明確化を意図している。また、今後さらに良い研修にしていくためには、各ブロックで評価の高かった点、改善すべき点について、全ブロックで共有することが非常に重要だと考える。

アンケートの回収総数は、修了者 71 人中 71 人(回答率 100%)であった。

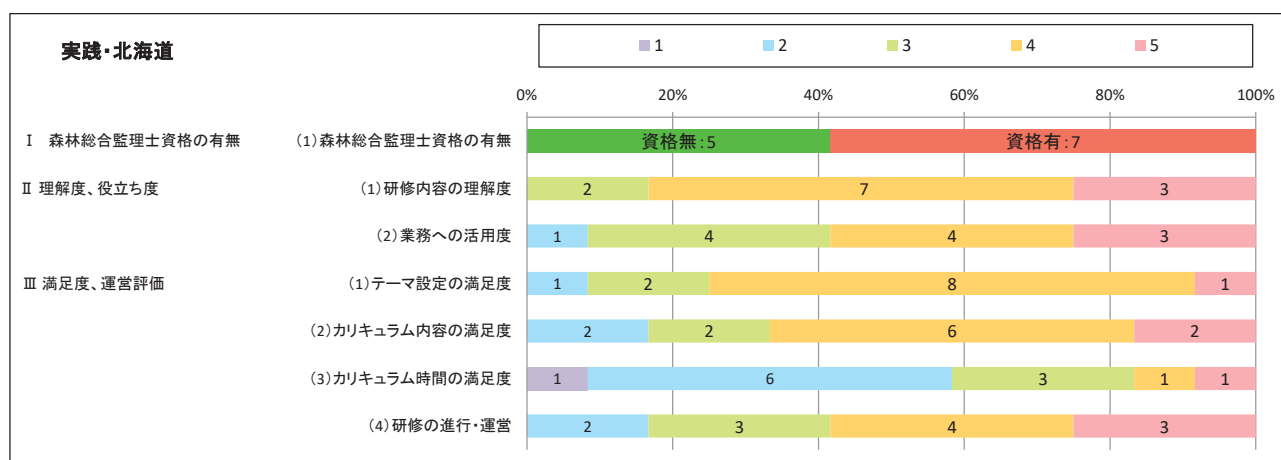
アンケートは、「森林総合監理士資格の有無」は 1 (資格あり)、2 (資格なし)とし、その他の各項目は 5 段階評価で「研修内容の理解度」は 1 (理解できなかった)から 5 (理解できた)まで、「業務への活用度」は 1 (活用できない)から 5 (活用できる)まで、「テーマ設定の満足度」と「カリキュラム内容の満足度」、「カリキュラム時間の満足度」は 1 (満足度が低い)から 5 (満足度が高い)まで、「研修の進行・運営」は 1 (良くなかった)から 5 (良かった)までの評価で実施した。

「森林総合監理士資格の有無」の状況は、各ブロックで異なっており(以下、(1)～(6)のブロック毎を参照)、各受講生の評価を判断する上でも参考にした。

新型コロナウイルス感染防止対策を取り、全ブロック 2 泊 3 日で実施した。

(1)北海道ブロック

テーマ:成熟した高齢級人工林における森林づくり～伐採と更新方法を考える～



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が 58%、資格なしが 42%であった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は 5 と 4 の回答が 83%を占め、昨年度(H31 : 100%)より評価が下がったが、過半数を超えていた。「かなり興味を引いて聞くことができた」、「分かりにくい点は少なかった」、「一部難しい部分もあったが理解できた」などのコメントが寄せられ、おおむね研修内容が理解されたことがうかがえる。

③業務への活用度

「業務への活用度」は 5 と 4 の回答が 58%と、昨年度(H31 : 88%)より下がったものの、「森林総合監理士に求められていること、心構えを再考する良いきっかけとなった」「コンテナ苗、林産

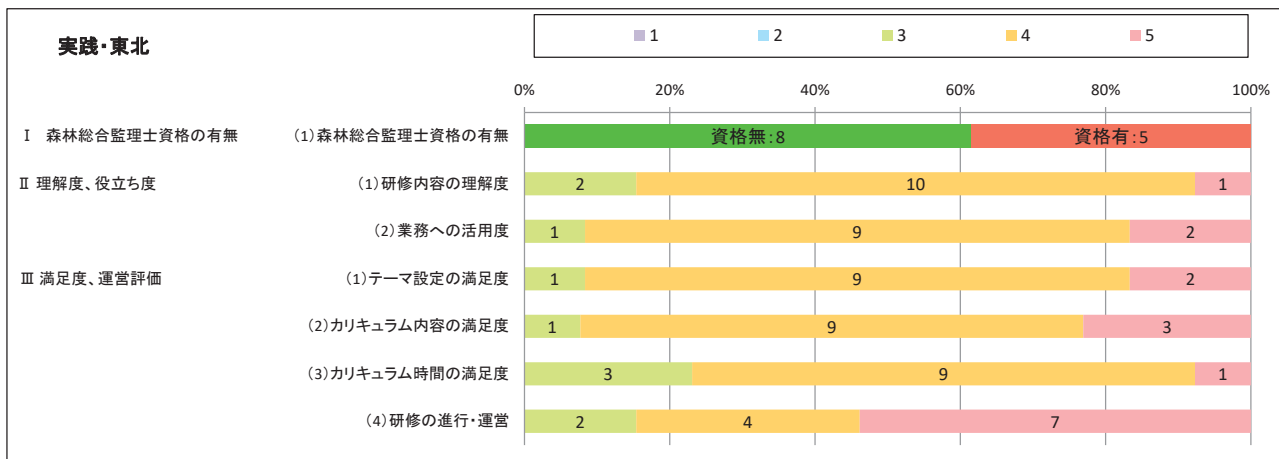
の情報などに活用できる」など前向きな意見も多く寄せられた。活用度が3以下の回答からは「考え方の補強ができた」、「研修の前提条件が実態と異なる」などの意見があった。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が75%と昨年度(H31:88%)より若干減少した。「伐採と更新方法は最重要テーマ」「高齢級人工林は全道的に問題となっている」「人工林施業は常に取り組みざるを得ない課題」等のコメントが多く寄せられ、受講生の要望に応えるテーマであったと考えられる。

(2)東北ブロック

テーマ:路網配置計画と情報化技術を用いた現地踏査



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が38%、資格なしが62%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答で85%を占め、高い理解度を得た。「道の考え方や便利なツールの紹介があり、有意義だった」、「作業道の路線選定を行うだけでなく、CS立体図を用いて、また、踏査の際にはスマホを利用という新しい技術を勉強することができた」等の意見が寄せられ、新たな技術やツールを用いた実践的な内容によりICT活用への関心や理解が深まったことがうかがえる。

③業務への活用度

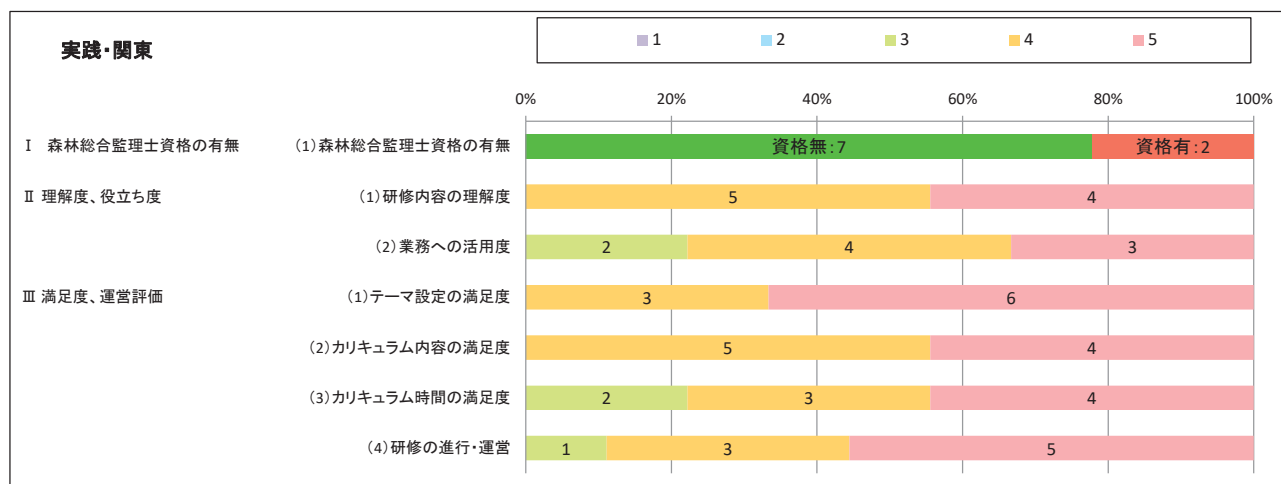
「業務への活用度」は5と4の回答で92%と非常に高い評価を得た。「省力化につながる技術で広く普及していきたい」、「GISを活用すれば通常業務の幅が広がると感じた」等、活用に積極的な意見が多数寄せられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」も5と4の回答で92%と非常に高い満足度となった。「興味があり、現場で求められるタイムリーなテーマだった」、「デジタルデータとデバイスの併用は非常に説得力があると感じた」等の意見が寄せられた。受講生の需要や関心が高いテーマ設定と研修内容だったことが高い評価を得たと考えられ、研修内で取り扱ったICT活用に特化した内容の研修を求める意見も寄せられた。

(3)関東ブロック

テーマ:主伐・再生林に向けた、ニホンジカ被害対策全体構想の作成と実行について



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が22%、資格なしが78%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が100%を占め、全員が高い理解度を示した(H31:92%)。「シカ対策の重要性や生態などがよく分かった」、「講師陣の話は分かりやすく質問に対する回答も明確だった」といったコメントが多く寄せられ、研修内容の理解の向上がうかがえる。

③業務への活用度

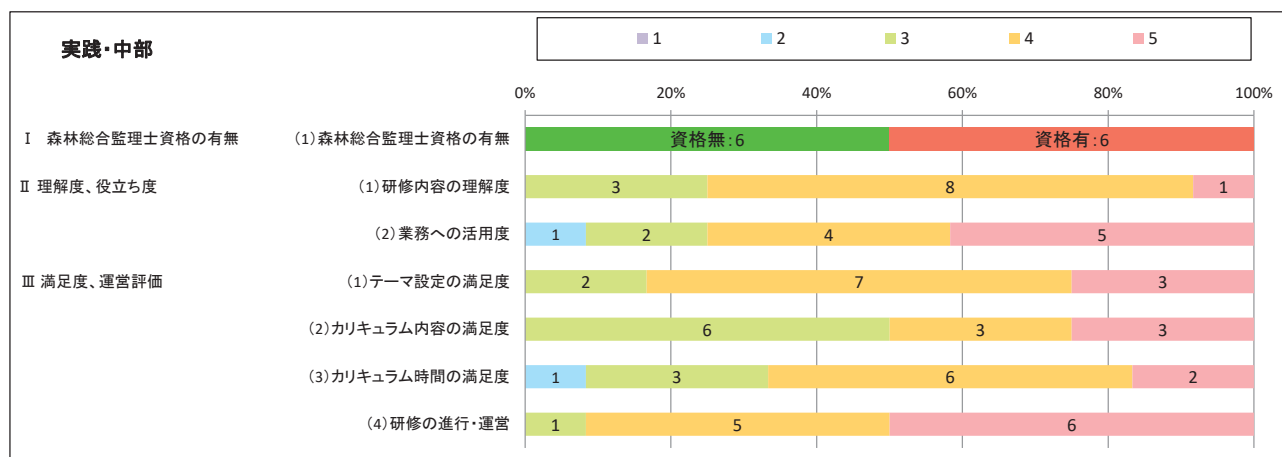
「業務への活用度」は、5と4の回答が78%で、昨年度(H31:75%)と同等だった。「森林総合監理士として知識の補強ができた」、「今後の森林組合指導等に役立てたい」といった前向きな意見が寄せられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が100%で、理解度同様に全員の満足度が高かった。「近年の重要な課題である」、「これからの林業には必要な知識だ」などのコメントが寄せられ、今後、森林管理を進めていくうえで重要なテーマであることがうかがえる。

(4)中部ブロック

テーマ：伐採・造林一貫作業システム(架線+路網)と木材流通



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が50%、資格なしが50%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が75%を占め、昨年度(H31:83%)より若干低くなったが、「架線集材について何の知識もなかったが、講師の方がていねいに教えてくれた」、「主伐・再造林の基本を理解することができた」といったコメントが寄せられた。

また「1班に1人講師が付き質問しやすかった」との感想も寄せられた。

③業務への活用度

「業務への活用度」は5と4の回答が75%を占め、こちらは昨年度(H31:72%)とほぼ同様であった。「事業体との施業方法検討の引き出しが増えた」、「架線系を選択肢にできる」といったコメントの他に、「架線現場の設計指導・巡回指導に活用できる」といった声が寄せられた。

④テーマ設定の満足度

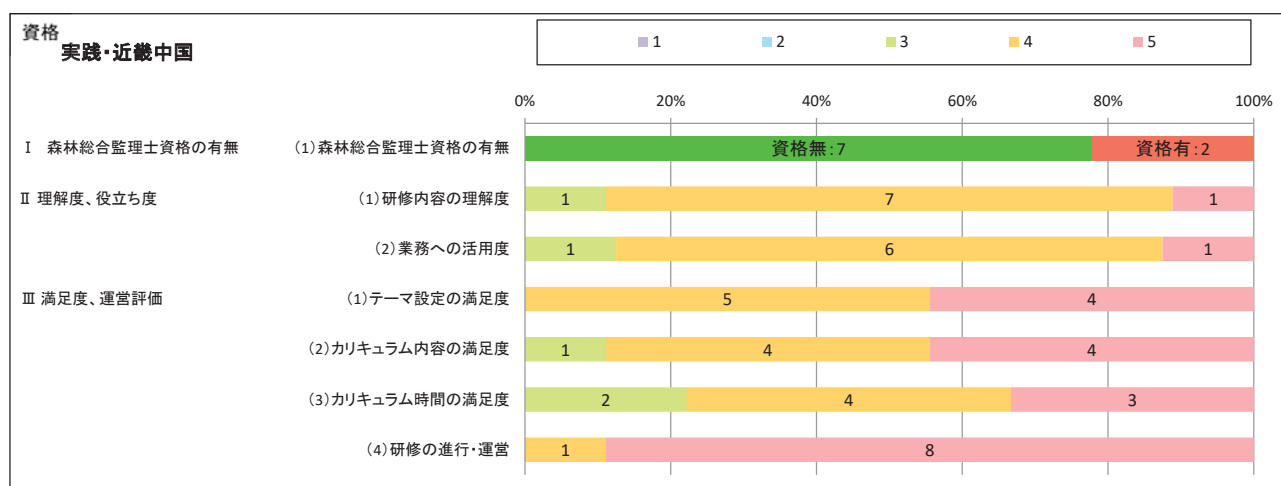
「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が83%で、昨年度(H31:77%)より若干高くなった。

「架線システムの一貫施業をもう少し掘り下げてほしかった」との要望もあったが、「販路まで見据えた一貫施業は地元でも要望が多く非常にありがたかった」、「馴染みのない架線集材を体験できて良かった」、「造林経費の削減面からも良かった」など満足する受講生が多かった。

なお、受講生12名のうち3名は他ブロックからの参加であり、テーマ(伐採・造林一貫作業システム(架線+路網)と木材流通)に惹かれた受講生も多かったものと思われる。

(5)近畿中国ブロック

テーマ：一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が22%、資格なしが78%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が89%で、昨年度(H31:93%)とほぼ同等で「現地で実際に実物を見て説明を受けることができる等理解が進みやすかった」、「知識、経験の少ない中での参加だったが、広葉樹林化等多くのことを学べた」などのコメントが寄せられた。

③業務への活用度

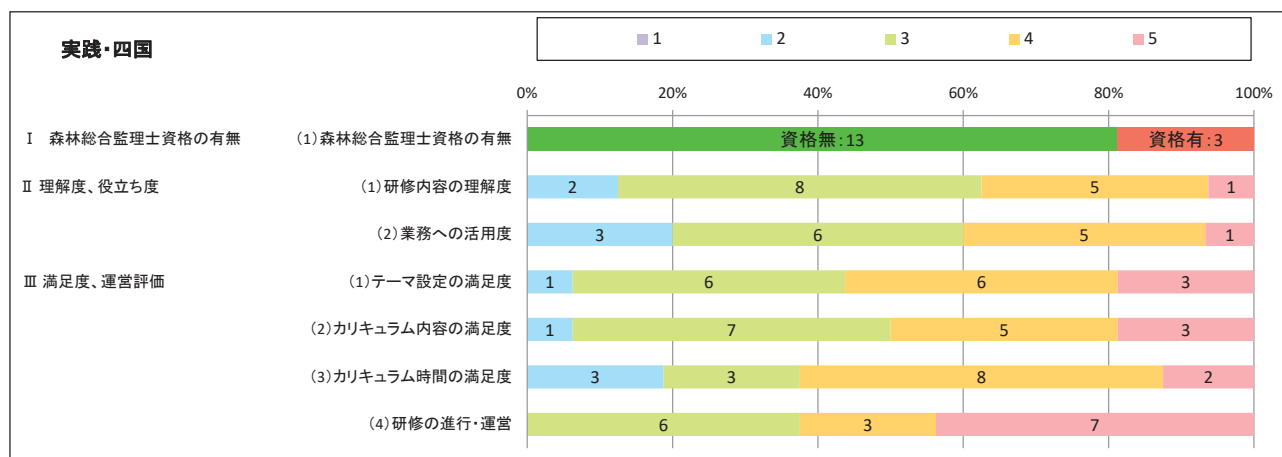
「業務への活用度」は5と4の回答が88%で、昨年度(H31:53%)より大幅に上昇し、「新たな森林管理システムの候補地等検討を行う際に活用していける」というコメントに代表されるように、直接的に業務への活用度の高さがうかがえる意見が寄せられ、本研修のねらいに沿った成果がみられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が100%で、昨年度(H31:80%)より上昇し、一昨年度から段階的に上昇してきている。「地位の違いがよく分かる現場を見ることができ、地位の違いを実感できた」、「目標林型の検討に大いに参考になった」など、今まさに必要とされているテーマと評価された意見が多く寄せられた。

(6)四国ブロック

テーマ：地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について



①森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は森林総合監理士が19%、資格なしが81%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が38%と他ブロックと比較し若干評価が低かったが、「架線設置計画の概要を理解することができた」といったコメントが寄せられ、3以下の評価でも「架線集材については初めての研修であったので難しい時間もあったが概要については理解できた」、

「搬出の計画は大変難しかったがとても勉強になった」といったコメントもあり、架線の経験がない受講生からもおおむね良い評価であった。

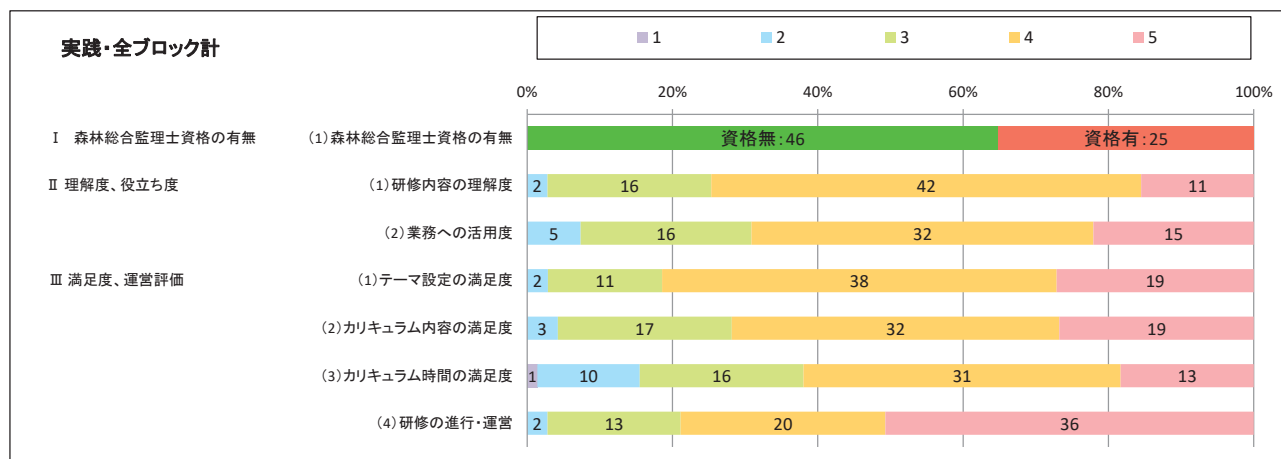
③業務への活用度

「業務への活用度」は5と4の回答が40%で、昨年度(H31:55%)より割合が若干低くなったが、「市町村の林務担当者に森林の構想を示すときに作業路網や作業システムの提案をする際に活用できる」、「間伐・皆伐を発注、施行する機会に集材手法を考え応用していきたい」といったコメントが寄せられ、また、3以下の評価では「活用できるよう数をこなしたい」、「勉強すれば活用できそう」といった前向きなコメントが寄せられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が56%と昨年度(H31:92%)より低くなったが、「急峻な奥地人工林対策として有効」、「木材生産の実践を考えるうえで役立つ」といったコメントが寄せられ、受講生にとって有効なテーマであったことが推察される。

3. アンケート結果の概要(全体)



(1) 森林総合監理士資格の有無

「森林総合監理士資格の有無」は各ブロックさまざまだが、北海道と中部は森林総合監理士が約半数を占め、その他のブロックは約2～3割が森林総合監理士だった。

(2) 研修内容の理解度、業務への活用度、テーマ設定の満足度

実践研修全体の評価として、全ブロックの計をみると、5と4の回答は、「研修内容の理解度」75% (H31: 88%)、「業務への活用度」69% (H31: 72%)、「テーマ設定の満足度」81% (H31: 84%)と昨年度と比べ全ての項目で若干評価は低くなった。また、ブロックごとでは、「研修内容の理解度」38～100% (H31: 55～100%)、「業務への活用度」40～92% (H31: 53～90%)、「テーマ設定の満足度」56～100% (H31: 78～92%) (※2. アンケート結果の概要(ブロック別)参照)と、昨年度と同様ブロックによってバラつきがあった。

① 研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は、5と4の回答で7割以上を占めるブロックがほとんどで、講師陣の話が分かりやすかったことや、実践的な内容により理解が深まったとうかがえる。特に関東が高い評価であった。一方、3以下の回答が多かったブロックについては、カリキュラム内容に関する知識がないうえでの参加だったといった自身の知識・経験不足を述べるコメントが少なからず寄せられた。

② 業務への活用度

「業務への活用度」は、例年、各ブロックで研修テーマが異なっていることからブロックによって評価にバラつきが出るが(※2. アンケート結果の概要(ブロック別)参照)、今年度も同様の結果だった。5と4の回答では、「今後の森林組合指導等に役立てたい」、「新たな森林管理システムの候補地等検討を行う際に活用していける」などのコメントに代表されるように、直接的に業務への活用度の高さがうかがえる。また、3以下の回答からも「考え方の補強ができた」、「森林経営計画の計画立案に一部参考にできる」といった意見があり、今後の業務に生きる内容であったことがうかがえた。東北と近畿中国は高い評価であった。

③ テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は、5と4の回答で7割以上を占めるブロックがほとんどで「近年の重要な課題である」、「現場で求められるタイムリーなテーマだった」といったコメントが多く寄せられ、受講生にとってタイムリーかつ必要とされるテーマであったことが評価につながったと推察される。特に関東は5の割合が6割以上を占め、高い満足度だった。

(3)カリキュラム内容・時間の満足度

①カリキュラム内容の満足度

「カリキュラム内容の満足度」は、5と4の回答で72%(H31:82%)と、昨年度より若干評価が下がったものの、おおむね高評価であった。しかしながら、ブロックごとで見ると50~100%(※2. アンケート結果の概要(ブロック別)参照)とブロックによってバラつきがあった。特に関東と近畿中国の評価が高く、「分かりやすく様々な箇所で応用が効きそう」、「山づくりの今後を考える上でとても参考になった」といったコメントが寄せられ、今後の業務に役立つ内容だったことが高評価につながったと推察される。一方、3以下の評価からは、次項目「②カリキュラム時間の満足度」にも関連するが、現地実習地が遠方だったことにより現地実習の時間不足を感じた受講生がいたことや、より掘り下げた話が聞きたかったという要望の声が寄せられた。

②カリキュラム時間の満足度

「カリキュラム時間」に対する満足度は、5と4の回答が62%(H31:67%)で、昨年度とほぼ同様であったが、ブロックごとで見ると17~78%(※2. アンケート結果の概要(ブロック別)参照)とバラつきとともに、ブロックによって大きな差が出た項目となった。5と4の回答が多いブロックからは、「短い時間の中でも濃い内容だった」、「内容が充実し時間配分も負担が少なく良かった」といったコメントが寄せられ、2泊3日の研修日程の中で、濃密な研修時間だったことがうかがえた。一方、評価の低いブロックでは、例年課題にあがっているが、「移動時間が長く、研修も詰め込み過ぎている気がした」、「グループ討議の時間が短い」といったコメントが見られ、本研修は、演習・検討後に各班から発表を行う構成にしていることから、現地実習と検討時間の確保がどれだけできるかが受講生の満足度にもつながり、引き続き検討課題と言えるのではないかと。

(4)研修の進行・運営

「研修の進行・運営」は、5と4の回答が79%(H31:84%)で、昨年度と同様、高評価だった。ブロックごとで見ると58~100%(※2. アンケート結果の概要(ブロック別)参照)と、ブロックによってバラつきはあったが、全ブロックから「間延びせず、メリハリのあるスムーズな進行が参考となった」といったコメントがあり、滞りなく進行されたことがうかがえた。他方、3以下のコメントからは、「後から補足することが多かった」、「パソコンへのデータ取り込み等は先にしてほしい」といったカリキュラムを進行するうえで、段取りや事前準備の重要性を改めて感じるコメントもあり、今後も注意して進行していくべきである。

(5)その他感想、来年に向けての提案など

本研修はブロックごとに取り扱う研修テーマが異なっていることから、各ブロックさまざまな感想等が寄せられたが、今回の研修で得られた知識を役立てたいといった前向きな意見が多く見られた。また、毎年寄せられる意見だが、「様々な立場の人からの話や話し合いの場を通して大変刺激となった」、「行政、民間の合同開催は非常に刺激になった」といったコメントに代表されるように、講師だけに限らず、受講生同士の意見交換・ディスカッションを通して、多くの学びや刺激があったことがうかがえる。多様な属性や現場経験を持った受講生が集うことは、本研修のメリットと言え、今後も引き続きバランスの良い受講生の構成で研修を続けていくことが重要である。

4. 運営改善報告書の概要

当日運営補助者から研修ごとに作成された運営改善報告書の概要は、以下のとおり。

ブロック	研修テーマ・カリキュラム	講義・演習・現地実習	その他
北海道	特記事項なし。	・予定時間を超過した講義があり(少し詰め込みすぎた)、内容を含め検討が必要。講義内容は、外部講師との兼ね合いについても考慮する。	特記事項なし。
東北	・日々の業務に関連付けるなど、もっと興味を持たせられるように研修内容等を工夫していく必要がある。	・受講生から、GISの操作時間がもっとほしかったとの声があった。	・新型コロナウイルス感染対策について、グループワークでの距離が近くなってしまうことなど対策が難しい点があったが、マスク・フェイスシールドの着用の徹底、こまめな消毒の徹底を引き続き呼び掛ける。
関東	・研修時間の効率を考慮し、事前学習実施の可否について意見があった。	・2日目演習時の計画シミュレーション作成に時間がかかり過ぎたため、計画シミュレーションの簡素化を検討する。	・研修全体のふりかえり(最終日のふりかえりシート)はあったが、3日目の研修のふりかえりシートがないため、各班の発表などに関する意見や感想がないという意見があった。
中部	・パソコンが各班1台のため、情報共有が難しい。	・ドローンを使ったデータがあると理解しやすかった。編集等作業に時間がかかるが検討する。	・空調機器の音が大きく気になった。
近畿 中国	・各班の発表をKP法で行っているが、パワーポイントに慣れている人の方が多いので、そちらでもよいのではないかと意見があり、検討する。	・天然力を活用した森づくりの説明箇所で、ヤードが狭く、一班ごとの説明となり、各班の質問を共有できなかった。全ての班がそろった時点で質疑応答を行い、共有できるようにする。	・研修資料に通し番号を記載してほしいという意見があったが、資料作成者が異なるため、印刷時間に余裕がない場合は難しい。図面にも資料番号を入れることで、参照箇所・頁を指定しやすくなるよう徹底する。
四国	特記事項なし。	・現地実習地が変更になり、現地までの移動時間(往復	・現場等の経験が豊富な受講生が多く、また、年齢・

		約4時間)が長いことから、研修日程内でのカリキュラム実施がタイトになった。	経験年数等の幅が広がったため、演習説明などで標準をどこに設定するか等、外部講師・内部スタッフ・運営側も対応が難しかった。
--	--	---------------------------------------	--

5. 実践研修の課題の整理

本研修は森林管理局が大きな役割を果たす中で、各ブロックともほぼカリキュラムどおりに研修を実施することができた。

本研修は、市町村への指導・助言の役割を担うべき森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的とし、森林総合監理士、都道府県職員、市町村職員、森林管理局署職員、団体職員等を対象に、全ブロック2泊3日で実施した。

受講生の平均年齢は昨年とほぼ同じであった(H31: 43.0歳→R2: 45.1歳)。

以下、受講生アンケート、各ブロックの運営改善報告書から、主な課題を抽出・整理した。

(1) ブロック別の課題

ブロック	アンケート結果を通じての課題	運営改善報告書を通じての課題
北海道	・「カリキュラム時間の満足度」の評価が低く、「グループ討議の時間が短い」、「質問時間が少なかった」といったコメントが寄せられ、時間配分の検討が必要である。	・予定時間を超過した講義があり(少し詰め込みすぎた)、内容を含め検討が必要。
東北	・全体的にアンケートの評価は高く、今後の業務に役立つツールの紹介が組み込まれ、関心や需要が高いテーマだったことが高評価につながったと推察される。	・受講生から、GISの操作時間がもっとほしかったとの声があった。
関東	・総じてアンケートの評価が高く、「近年の重要な課題である」といったコメントに代表されるように、特にテーマ設定の満足度が高かった。	・2日目演習時の計画シミュレーション作成に時間がかかり過ぎたため、計画シミュレーションの簡素化を検討する。
中部	・「発表準備の時間をもう少し長く」、「検討内容が多い」といったコメントが寄せられ、カリキュラム内容と時間のバランスは今後も検討が必要である。	・演習の流れをイメージし、動画も含め、どういった資料が演習に必要なか、今後も検討が必要である。
近畿中国	・昨年度は「カリキュラム時間の満足度」の評価が若干低かったが、今年度は改善され、総じてアンケートの評価は高かった。	・現地実習地での説明において、現場が狭かったことから、一班ごとの説明となった箇所があり、各班の質問を共有できなかった。全ての班が揃った時点で質疑応答・共有ができるよう改善が必要。
四国	・架線集材というコアな内容を扱っていることから、「研修内容の理解度」と「業務への活用度」の評価が若干低かった。	・現地実習地までの移動時間(往復約4時間)が長いため、研修日程内でのカリキュラム実施がタイトだったことから、研修日程と合致したカリキュラム内容を検討する必要がある。

(2) 全体を通しての課題の整理(アンケート結果を通じて)

アンケートは、「森林総合監理士資格の有無」以外は、全項目5段階評価で実施した。「研修内容

の理解度」、「業務への活用度」、「テーマ設定の満足度」は、5と4の割合が38～100%とブロックによって非常にバラつきがあった。今まさに課題となっているテーマやタイムリーな課題を扱ったブロックは評価が高い傾向があった。他方、3以下の回答であっても、「考え方の補強ができた」、「森林経営計画の計画立案に一部参考にできる」といった前向きな意見が寄せられている。また、低い評価の理由として、自身の知識・経験不足を述べる意見が少なからず寄せられた。技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的としていることから、今後も森林総合監理士等として指導・助言などを行っていく上で、実践的なテーマ・内容で実施することが重要である。

「カリキュラム内容」に対する満足度は5と4の割合が50～100%とブロックによってバラつきがあった。また、「カリキュラム時間」に対する満足度も5と4の割合が17～78%と、ブロックによってバラつきがあり、かつブロックによって大きな差が出た項目だった。例年あがる意見だが、ブロックによって「現地踏査・検討時間が短い」などのコメントが見られ、カリキュラム内容に現地実習と検討・演習時間をどのように組み込んでいくか、また、時間配分を引き続き検討・改善していくべき課題と言える。

「研修の進行・運営」は5と4の割合が58～100%でバラつきがあったものの、全ブロックからスムーズな進行であったといったコメントが寄せられ、おおむね問題なく、進行・運営されたことがうかがえる。今後も、カリキュラムや講義・演習の中で盛り込むべき内容を検討し、こういった資料やデータ等を準備して研修を実施するか、ブラッシュアップしていくことが重要である。

(3)全体を通しての課題の整理(運営改善報告書を通じて)

各ブロックでカリキュラムや現地実習地までの移動時間等が異なるため、今年度の課題にそれぞれ違いはあるが、受講生が地域に戻って指導や助言を行う際のヒントになるよう、各ブロックのテーマに合った講義・演習とし、また限られた時間内での研修であることから、進行の流れを止めることのないよう、資料内容や伝え方の工夫をしていくことが重要である。

6. 総括

(1)全体設計・テーマ・カリキュラム

本研修は、市町村への指導・助言の役割を担うべき森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的としている。そのため今年度も森林総合監理士を受講対象としたが、森林総合監理士の受講者数はブロックによってバラつきがあり、森林総合監理士の参加率は19～58%と昨年度(H31:20～94%)より低く、研修受講者数については、新型コロナウイルスの影響から、各ブロックの受講者数が9～16名と若干少ないブロックもあった。また、ブロックによっては、現場経験が豊富な民間事業体の受講生の割合が多いブロックがあり、演習の説明レベルの標準をどこに設定するか等、対応が難しいブロックもあった。本研修の目的及びカリキュラム内容の周知、受講生の選定、受講者数の確保について検討が必要であると考えます。

テーマ設定については、ブロックごとに地域の特性や現状及び都道府県のニーズ・意見を踏まえて設定しているが、ブロックによって評価にバラつきがあり、今まさに課題となっているテーマやタイムリーな課題を扱ったブロックは評価が高かった。今後も地域の実情や課題に即し、森林総合監理士等として市町村へ指導・助言などを行っていく上で、実践的かつ業務で活用できるテーマを選定することが重要である。

カリキュラム内容・時間の評価についてもブロックによってバラつきがあった。評価が低いブロックについては例年あがる意見だが、本研修は演習がメインの構成となっていることもあり、「現地踏査・検討時間が短い」といったコメントが寄せられ、限られた時間内に詰め込み過ぎないように、現地実習や演習をどのように組み込むことができるかは引き続き検討が必要である。また昨今のICT化に伴い演習にパソコンを取り入れるブロックも増えていることから、演習のシミュレーションは重要である。

(2)研修運営

今年度は新型コロナウイルスの感染状況により、当初の実施予定日より開催を遅らせたブロックもあったが、6ブロックとも開催することができた。また当初計画では会場定員の少なかった関東、近畿中国ブロックでは近隣のより広い会場へ変更し、全ブロックとも現地実習でのバスの乗車人数調整や台数を増やす等、対策を講じた。室内においても、換気や日々の検温、マスクの着用、マイクや備品等の消毒を徹底し、受講生や講師・関係者等が安心して研修を実施できるよう努めた。受講生等研修参加者は、研修2週間前から自身の「体温・体調等記録用紙」を記入し、最終日の提出とともに、受講後2週間以内に体調の悪化が生じた場合は統括事務局へ連絡することとしたが、研修中及び後日においても参加者からの連絡はなかった。その他にも、受講生、講師・関係者等が必要としていることを事前に想定し準備を行った。

本研修では、テーマやカリキュラムは森林管理局が作成した。統括事務局ではブロックごとに担当者を配置してブロック事務局の担当者とチームをつくり、研修実施に向けた森林管理局の研修担当官と連絡・調整を密に図った。また、統括事務局は、受講生・外部講師への連絡・調整、安全管理マニュアルの作成、タイムスケジュールの確認、資料印刷等を行うことで、受講生が研修に集中できる環境を整えた。

研修当日は、森林管理局が進行役を務め、ブロック事務局スタッフと連携して運営した。過年度の実践研修の経験や知識が蓄積されていることから、おおむねスムーズに運営できたが、研修担当者の経験等により差異が生じることもあることから、後継者育成、引継ぎ等の工夫は引き続き重要な課題であり、今後も各ブロックでの良い点や工夫点を全ブロックで共有し、良い点は取り入れて

いくことも円滑な研修運営につながると考えられる。今後もさまざまなことを想定した運営準備をしていくことは、全ブロック共通して意識する事項である。

(3)おわりに

現地検討及び討議を通じて現場レベルでの課題解決策を共有する研修を実施したが、外部講師・森林管理局講師からだけでなく、県職員や国有林職員、民間受講生といった多様な属性の受講生同士が意見交換し、お互いからも学びのあるカリキュラム構成となっている。今年度見えた課題をふまえ、ブラッシュアップしていくことが重要であり、地域のニーズに合った研修を実施していくことが森林総合監理士等の技術者の技術水準の維持・向上につながると期待したい。

情報共有ネットワーク化

情報共有ネットワーク化

I. サイトの開設状況

1. 市町村支援技術者養成事業ポータルサイト

(1)目的

実践研修の実施概要・カリキュラム(年度当初は計画)、森林総合監理士のPR等を掲載し、広く一般への本事業の理解促進に資する。

(2)対象者

一般国民、森林・林業関係者、実践研修の対象者等

(3)構成・イメージ

○コンテンツ

- ・事業概要：本事業実施の目的、本事業の概要
- ・実践研修：研修の目的、対象者、研修概要、研修実施時期等
- ・森林総合監理士PR：サイトの概要
- ・森林総合監理士ネットワークサイト：サイトの概要

市町村支援技術者養成事業ポータルサイト

ネットワークサイトログイン

事業概要 実践研修 森林総合監理士PR ネットワーク サイトマップ

新着情報

2020.9.16 参考情報：森林総合監理士活動事例集 令和2年度版をアップしました。

2020.8.25 参考情報：森林総合監理士(フォレスター)基本テキスト【令和2年度 PDF版(林野庁HPにてダウンロード)】【平成29年度 冊子版(全林協HPにて購入・申込み)】
・販売冊子は平成29年度版になりますのでご注意ください。
・令和2年版は内容が一部改定されています(令和元年度の冊子販売はありません)。

2020.8.25 令和2年度 市町村支援技術者養成事業ポータルサイトを開設しました。

↑ PAGE TOP

関連リンク

→ 林野庁

→ 「森林総合監理士(フォレスター)の育成」(林野庁)

▼ 森林総合監理士育成研修各森林管理局のページ

→ 北海道森林管理局

→ 東北森林管理局

→ 関東森林管理局

→ 中部森林管理局

→ 近畿中国森林管理局

→ 四国森林管理局

→ 九州森林管理局

→ 全国林業改良普及協会

ホーム プライバシーポリシー サイトマップ

▲ トップページ

事業概要
令和2年度 市町村支援技術者養成事業
→ 事業の目的及び概要
<p>1 目的</p> <p>森林経営管理法の施工に伴う新たな森林管理システムの円滑な運営をはじめとした市町村による森林・林業行政の円滑な実施を図るため、市町村の森林・林業担当職員に対し適切な指導・助言等の支援ができる都道府県等の技術者の育成・確保を目的とした人材育成事業です。</p> <p>2 概要</p> <p>森林経営管理制度の円滑な運用に向け、市町村に対し適切な指導・助言等の支援を行う都道府県職員等の技術者を養成・確保するため、森林経営管理制度に対応した研修カリキュラムの検討及び技術者養成のための研修の運営並びに技術者（森林総合監理士等を含む）の技術力の維持・向上を図るための実践的な継続教育の実施等を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実践研修 ● 森林総合監理士PRサイト ● 森林総合監理士ネットワークサイト

▲ 事業概要 (部分表示)

実践研修
概要
市町村への指導・助言の役割を担うべき森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的として、地域の森林・林業の再生、林業の成長産業化等の課題をテーマに、現地検討及び討議を通じ、現場レベルで活動を実践していく際に必要な知識・技術の習得を図る研修とし、地域特性等を踏まえた課題等をテーマに設定して行う実践研修を全国6ブロックにおいて実施します。
→ 対象者
森林総合監理士、都道府県職員、市町村職員、森林管理局職員、民間職員 等
→ 研修内容
森づくりや木材生産のコスト低減に向けた先進的な取組をテーマに、外部の専門家にも参加して頂き、地域のフィールドを活用した現地検討、課題の背景と解決策を共有するための地域の取組事例発表、現地検討後の意見交換等を行うカリキュラムにより実施します。
→ 研修実施場所等
全国6ブロック（北海道、東北、関東、中部、四国、九州の各森林管理局管内）において9月から11月に実施します。

▲ 実践研修 (部分表示)

2. 実践研修受講生向けサイト

(1) 目的

実践研修受講生への情報提供・共有の場を提供することにより、受講生のフォローアップに資する。

(2) 対象者

令和2年度実践研修受講生、研修運営に関わる者（林野庁・森林管理局の研修講師および研修運営関係者）

※対象者のみのログイン制

(3) 構成・イメージ

○ コンテンツ

- ・ ブロック研修回ごとの配布資料PDF
- ・ ブロック研修回ごとの実施報告書PDF
- ・ 森林総合監理士(フォレスター)基本テキスト(令和2年度版)PDF

【参考：令和元年度実践研修】

- ・ ブロック研修回ごとの配布資料PDF
- ・ ブロック研修回ごとの実施報告書PDF

市町村支援技術者養成事業 技術力維持・向上対策研修（実践研修）受講生サイト

新着情報

- 2020.12.24 [近畿中国ブロック](#) 実施報告書・研修資料をアップしました。
- 2020.12.14 [中部ブロック](#) 実施報告書・研修資料をアップしました。
- 2020.11.26 [四国ブロック](#) 実施報告書・研修資料をアップしました。
- 2020.11.19 [北海道ブロック](#) 実施報告書・研修資料をアップしました。
- 2020.11.11 [関東ブロック](#) 実施報告書・研修資料をアップしました。
- 2020.9.25 [東北ブロック](#) 実施報告書・研修資料をアップしました。
- 2020.8.25 [北海道ブロック](#)・[東北ブロック](#)・[関東ブロック](#)・[中部ブロック](#)・[近畿中国ブロック](#)・[四国ブロック](#) 実施報告書をアップしました。
- 2020.8.25 参考情報：森林総合監理士（フォレストラー）基本テキスト
【令和2年度 PDF版（林野庁HPにてダウンロード可）】
- 2020.8.25 研修実施後に実施報告書を掲載します。
参考までに昨年度の研修実施報告書・研修資料を掲載しています。
- 2020.8.25 令和2年度 技術力維持・向上対策研修（実践研修）受講生サイトをオープンしました。

↑ PAGE TOP

令和2年度

- [北海道](#)
- [東北](#)
- [関東](#)
- [中部](#)
- [近畿中国](#)
- [四国](#)
- [九州](#)

令和元年度

- [北海道](#)
- [東北](#)
- [関東](#)
- [中部](#)
- [近畿中国](#)
- [四国](#)
- [九州](#)

▲ トップページ

四国ブロック		
研修資料		
日程	講義等の内容	資料名
1日目	【講義】 大型製材工場の現状と課題地域の特性に合った木材流通等	株式会社サイプレス・スナダヤの案内 ●講師：砂田 和之（株式会社サイプレス・スナダヤ）
	【講義】 集材架線システムの資料作成の説明（コスト計算等） 簡易な架線集材の見学等	集材架線システム等の資料作成について 取巻、集材方法などの検討
	【実習】 各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図（集材線・路網）を記入	
2日目	【現地実習】 採材研修	●講師：大川 容平（高知県森林組合連合会 高幡共販所） 受講生発表資料 採材 1 / 2 / 3 / 4
	【現地実習】 架線集材作業現場見学及び説明（元柱付近）	
	【現地実習】 架線集材作業現場見学及び説明（先柱付近）及び架線集材作業現場見学及び各班、事前に1/5000の図面に記入した、搬出系統図（集材線・路網）を現地踏査確認	●講師：太郎田 佑一（須崎地区森林組合）
3日目	【発表】 集材架線システムの発表	受講生発表資料 パワーポイント 1 / 2 / 3 / 4

▲ 研修資料>四国ブロック

1 架線系作業システムによる効率的な施業方法の確立が課題

我が国の森林資源は、高齢級の森林が増えており、資源として本格的な利用が可能な段階となっている。

このような森林資源の循環利用を図るとともに、森林の有する多面的機能を維持・向上させるための森林整備や持続的な林業経営を進めていくには、生産体制等の整備が重要となり、これまで、路網整備や高性能林業機械の導入・改良等による生産体制等の効率化が進められてきたが、今後は、路網整備が比較的に困難な奥地林の急傾斜地における間伐や皆伐、再造林等の森林施業も必要となることから、架線系作業システムによる効率的な施業は避けて通れない課題となっている。



実施結果

→開催日時：令和2年11月11日（水）～13日（金）

研修会場：四国森林管理局（高知県高知市）
 現地実習地：中土佐町島ノ川山国有林

テーマ：地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について

(1) 報告書PDF

▲実施報告書>四国ブロック

実践研修 実施報告書(四国ブロック)

1 日程・研修場所 令和2年11月11日(水)～11月13日(金)
 研修会場 四国森林管理局会議室(高知県高知市)
 現地実習 島ノ川山国有林3229林班外(高知県中土佐町)

2 研修受講者数:16名【男性:16名】
 (県職員4名、町職員1名、愛媛県職員1名、民間事業者7名)

奈良県	1名	愛媛県	1名	福岡県	1名	大分県	1名	上勝町	1名
森林管理局	4名	民間事業者	7名						
途中欠席者数 0名									

3 研修実施概要

○研修運営状況、研修生の様子など

- ・1日目は開講式後、砂田講師(株)サイブラスナダヤから動画によるCLTを中心とした製品供給状況の説明があった。その後、局駐車場内に設けられたエンドスタイル一式集材機による研修とGISによる架線設計等についての講義が行われ、それらを基に各班が搬出系統図作成の演習準備を始めた。
- ・2日目は採材研修及び搬出系統等の資料作成に向け、実際に開伐作業を行っている島ノ川山国有林で現地実習を行った。採材研修は、経験豊富な受講生が多かったことから、急速、各班2本づつの採材検討に変更した。現地実習終了後、会場に戻り、搬出系統等の資料作成作業を行った。
- ・3日目は前日の現地実習を踏まえ、班ごとに集材架線システム等の関連資料を作成後、発表・質疑応答と続き、全てのカリキュラムを終了した。
- ・全体としては、過年度と同じ2泊3日の日程の中で、前年の実績と改善を基にしたカリキュラムとすることで、実務への寄与度がより大きくなった内容であった。

○今回の研修の工夫点

- ・昨年、受講生の関心が高かった砂田講師の講義時間を30分延長し、活発な質疑応答が行われたことで、広範なCLT情報が提供できた。
- ・各班の発表方法をKP法からパワーポイントでの発表に変更され、より技術水準の維持・向上につながった。

4 記録写真

砂田講師のCLT等川下状況説明 1日目
 エンドスタイル一式集材機による研修 1日目
 生産現場における採材研修 2日目
 デジタル化、一式集材架線の現場での説明 2日目
 現地研修を経て集材架線システム作成 演習 3日目
 各班作成の集材架線システム発表状況 3日目

3. 森林総合監理士PRサイト

(1)目的

森林総合監理士活動への需要者(市町村、事業者、森林所有者等)に向けた、森林総合監理士活動の需要拡大を支援(P R)することを資する。

森林総合監理士の役割、機能、「依頼できること」、「森林総合監理士とともに実現できること」などをわかりやすく紹介し、森林総合監理士の登場で地域森林経営をどのように向上できるのか、森林総合監理士の活動モデル(実践モデル)を描く内容とした。活動モデルでは、地域レベル、個別レベルでの経営への助言・アドバイス、計画作成、監理、実行など、さまざまな場面の具体的な事例を掲載した。

(2)対象者

山林所有者、素材生産業者、木材流通・加工業者、市町村担当者、消費者、教育機関担当者等

(3)構成・イメージ

○コンテンツ

- ・山林所有者、素材生産業者、木材流通・加工業者、市町村担当者、消費者、教育機関担当者等へ向けた森林総合監理士の活用方法
- ・森林総合監理士(フォレスター)とは? : 森林の整備・保全と林業の成長産業化に向けた政策の基本方向、森林総合監理士(フォレスター)の役割・活動内容、森林総合監理士(フォレスター)の制度的位置づけ、必要な施業の勧告等を掲載
- ・あなたの地域の森林総合監理士: 各県ごとの森林総合監理士登録者一覧PDF(林野庁ホームページをリンク掲載)
- ・森林総合監理士の活動モデル(実践モデル): 森林総合監理士の活動の立場、森林総合監理士(フォレスター)の活動モデルを掲載

- ・用語辞典：森林総合監理士関係用語の説明
- ・森林・林業情報源：森林林業の技術・普及(出版)関係、林業就業関係、木材関係、森林ボランティア、森林・環境教育関係の事業体等を掲載
- ・関連情報リンク

森林総合監理士PRサイト

市町村支援技術者養成事業

「森林総合監理士がお役に立ってます」

森林総合監理士（フォレスター）は、地域全体の視点に立ち、森林経営と林業技術両面に関する専門知識をもち、求められる役割を担ってまいります。
森林総合監理士が、どのような形で地域の皆様のお役に立てるかということ、イメージし、実際に活用していただけるような情報を提供いたします。

森林総合監理士とは？

あなたの地域の森林総合監理士

森林総合監理士の活動モデル（実践モデル）

用語辞典

森林・林業情報源

関連情報リンク



山林所有者のみなさま



素材生産業のみなさま
(森林組合・林業事業体)



木材流通・加工業のみなさま



市町村担当者のみなさま



消費者のみなさま



教育機関のみなさま

注目情報

参考情報：森林総合監理士(フォレスター)基本テキスト
[【PDF版（林野庁HPにてダウンロード）】](#)
[【冊子版（全林協HPにて購入・申込み）】](#)
[森林総合監理士活動事例集 令和2年版\(PDF/6MB\)](#)

森林総合監理士(フォレスター)

林野庁
Forestry Agency

全林協
一般社団法人
全国林業改良普及協会

▲ トップページ

北海道南部地域の森林認証取得に向けた地域への支援

<北海道渡島総合振興局東部森林室主幹>

取組のポイント

- 道南地域（渡島総合振興局・檜山振興局）を広域に担当する主幹（森林総合管理）として、市町村や森林組合、林業・木材産業界への普及指導活動等を通じて、地域での森林認証取得を支援した。

地域の課題

- これまで低位利用されていた道南地域材の新たな付加価値化とブランド化を目指すため、地域が一体となって森林認証を取得する。

具体的な取組内容・成果

- 取組内容
 - 認証取得を目指して発足した協議会への支援
 - FM取得者(市町村、森林組合)への支援
 - 対象森林の精査
 - 各種マニュアルの整備
 - 市町村による支援措置の創出
 - CoC取得者(素材生産・木材加工)への支援
 - 林業・木材産業界への合意形成
 - 各企業の管理体制指導



認証取得森林 (FM)
約7万9千ha
2市11町8森林組合1企業

▲ 森林総合監理士活動事例集 (部分表示)

山林所有者のみなさま
素材生産業のみなさま
木材流通・加工業のみなさま
市町村担当者のみなさま

山林所有者のみなさま

「地域のまとまり、将来へのそなえ」を確実に

林業で期待できる経済効果は、一人一人で行うより、まとまることでより高めることができます。

例えば、

- 森林所有者の山林をまとめて間伐できるなら、作業効率が上がります。
- 伐採・生産した木材をまとめることで、有利な販売が可能になります。
- 森林所有者の意見をまとめることで、作業道を作り、効率的な良い林業作業ができ、結果として林業の生産コストを下げるすることができます。

こうしたまとまりを地域に作り、経済効果を高めるためには、全体を取りまとめる計画が必要ですし、地域の森から、将来どのように木材(量・質)を産出し、市場へ売却していくのか、といった経営方針や実行方法を定める計画も必要です。

みなさんがお住まいの市町村では、そのような林業の計画(※1)を作成していますし、山林所有者のみなさん自身の計画づくり(※2)のお手伝いも行っていきます。

森林総合監理士(フォレスター)は、森林経営と林業技術の両面に関する専門的知識を持

▲ 森林総合監理士の活動モデル (部分表示)

4. 森林総合監理士ネットワークサイト

(1)目的

森林総合監理士の活動を公表・共有するなど、活動の「見える化」を促進することで、地域の優れた取り組みを波及し、森林総合監理士のモチベーション向上に資する。森林総合監理士活動を広げるヒント、アイデア集として活用できる、継続的なスキルアップを目指したサイトコンテンツを構築した。

(2)対象者

森林総合監理士(サイトを閲覧するために、事前に登録フォームから申請が必要)

※登録者のみのログイン制

(3)構成・イメージ

○コンテンツ

- ・全国の活動からのヒント：森林総合監理士活動発表、進行形の取り組み、計画作成支援、経営支援、技術・集約化支援、需給調整・木材活用支援、特用林産物利活用支援、鳥獣害対策支援、安全衛生向上、研究開発支援(実証事業)、人材育成、インフォーマルな教育活動支援、意志決定支援等、活動事例を掲載
- ・森林管理局の取り組み：各森林管理局の森林総合監理士に関連した事業内容を掲載
- ・研修関係の蓄積情報：平成 23～25 年度准フォレスター研修・平成 26～28 年度森林総合監理士育成研修の講師一覧、研修フィールド一覧、講義資料等を掲載
- ・全国のネットワーク、連絡先：協議会・ネットワーク、都道府県の普及担当課、森林管理局担当課の問い合わせ先等を掲載
- ・その他のお役立ち情報：森林総合監理士に役立つ情報を掲載
- ・各ブロックのコンテンツ：7つのブロックごとに自由に情報を発信、コメント投稿できるように設定



森林総合監理士(フォレスター)活動を見る化し、みなさんにお役立ていただける『みんなの引き出し』的サイトを目指します。

北海道
ブロック

東北
ブロック

関東
ブロック

中部
ブロック

近畿中国
ブロック

四国
ブロック

九州
ブロック

更新情報

RSS

☐ [登録内容変更申請フォーム](#)

☐ [森林総合監理士ポータルサイ
ト](#)

☐ [森林総合監理士PRサイト](#)

☐ [「森林総合監理士\(フォレス
ター\)の育成」\(林野庁\)](#)

☐ [全国林業改良普及協会](#)

☐ [お問い合わせ](#)

令和2年度版 森林総合監理士 活動事例集をアップしました

2020年9月16日 [更新情報](#)

▲ [トップページ](#)

全国の研修からのご紹介 森林管理の取り組み こんねとまどうする? 研修関係の蓄積情報 全国のネットワーク、蓄積先 その他のお役立ち情報

講師一覧

平成23~25年度准フォレスター研修
平成26~28年度森林総合監理士育成研修 講師リスト

各地域での研修等の開催の際に、参考にしてください。
各ファイルの使用は、森林総合監理士(フォレスター) 限りとしますので、取り扱いには十分ご注意ください。

森林管理局講師 [PDF]
外部講師 [PDF]
本庁講師 [PDF]

研修関係の蓄積情報

講師一覧 研修フィールド一覧 講義資料 各種分析・評価データ

【取り扱い注意】フォレスター限り

氏名	所属	年度	プログラム	講義名
川島 裕	林野庁林野計画課	H26	関東	【演習】資源循環利用構想演習(現地実習を踏まえた森林の整備計画と木材供給シシンの検討、発表準備) 【演習】資源循環利用構想演習(発表・ディスカッション)(講評)
		近畿中部	【演習】資源循環利用構想演習(発表・ディスカッション)(講評)	
		近畿中部	【演習】資源循環利用構想演習(机上演習の検討結果を踏まえて、地質、林況等現地条件の検討) 【演習】資源循環利用構想演習(現地実習を踏まえた森林の整備計画と木材供給シシンの検討) 【演習】資源循環利用構想演習(発表準備、発表、ディスカッション)	
		近畿中部	【演習】資源循環利用構想演習(机上演習) 【演習】資源循環利用構想演習(机上演習の検討結果を踏まえて、地質、林況等現地条件の検討) 【演習】資源循環利用構想演習(現地実習を踏まえた森林の整備計画と木材供給シシンの検討) 【演習】資源循環利用構想演習(発表準備、発表、ディスカッション)	
川村 竜哉	林野庁計画課	H24	関東	【講義】森林・林業再生プランの概要・フレキシブルの役割、プラットフォームの連携 【講義】森づくりの構想 【演習】地域の森林・林業のビジョンと市町村森林整備計画 【演習】森づくりの森林経営計画 【演習】市町村森林整備計画(演習説明、班内共有、作業、発表準備) 【演習】市町村森林整備計画(発表、ディスカッション)
		近畿中部	【演習】資源循環利用構想演習(発表・ディスカッション)(講評)	
小坂 香太郎	林野庁計画課	H24	中部	【講義】森林・林業再生プランの概要・フレキシブルの役割、プラットフォームの連携 【講義】森づくりの構想

▲研修関係の蓄積情報>講師一覧>本庁講師

全国の研修からのご紹介 森林管理の取り組み こんねとまどうする? 研修関係の蓄積情報 全国のネットワーク、蓄積先 その他のお役立ち情報

協議会・ネットワーク

全国の協議会・ネットワーク

全国	地域	名称	事務局/連絡先	備考
全国	全国	フォレスター・ギャザリング	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 フォレスター・ギャザリング事務局 TEL:03-5561-4112	全国のネットワーク、情報先 協議会・ネットワーク 各種分析・評価データ
関東	関東	関東フォレスター協議会	〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 フォレスター・ギャザリング事務局 TEL:03-5561-4112	
近畿	近畿	近畿フォレスター協議会	〒600-0001 京都府京都市中京区錦町1-1-1 近畿フォレスター協議会事務局 TEL:075-222-1111	
中部	中部	中部フォレスター協議会	〒500-0001 岐阜県岐阜市南町1-1-1 中部フォレスター協議会事務局 TEL:057-233-1111	
北陸	北陸	北陸フォレスター協議会	〒920-0001 石川県金沢市南町1-1-1 北陸フォレスター協議会事務局 TEL:076-233-1111	
中国	中国	中国フォレスター協議会	〒730-0001 広島県広島市南区本町1-1-1 中国フォレスター協議会事務局 TEL:082-233-1111	
四国	四国	四国フォレスター協議会	〒760-0001 高松市東町1-1-1 四国フォレスター協議会事務局 TEL:087-233-1111	
九州	九州	九州フォレスター協議会	〒810-0001 福岡市中央区天神1-1-1 九州フォレスター協議会事務局 TEL:092-233-1111	

フォレスター・ギャザリング2020
西栗倉村への道

フォレスター・ギャザリング
@forester.gathering

ホーム
投稿
基本データ
コミュニティ
イベント

投稿
フォレスター・ギャザリングさんイベント参加しました。
1月10日 18:45

Our Story
「日本型フォレスター」の歴史を振り返ります。第1回は2009年8月3日に長野県長野市の次世代森林産業協会にて開催予定です。おめでとうございます。フォレスター、と自覚するみなさんの参加をお待ちしております。
さらに表示

▲全国のネットワーク、連絡先

Ⅱ．総括

森林総合監理士の技術水準の維持・向上、新たな森林管理システムを運営していく上での課題への対応や先進的な地域活動の支援を目的とした、森林総合監理士活動の見える化をねらいとし、森林総合監理士を活用する者対象の『森林総合監理士PRサイト』と、森林総合監理士の登録者限定の『森林総合監理士ネットワークサイト』を作成した。

『森林総合監理士PRサイト』は、森林総合監理士活動をPRし、地域での森林総合監理士の需要を喚起する目的として作成した。各道県の森林総合監理士の活動事例の紹介や対象者(山林所有者、素材生産業者、木材流通・加工業、市町村担当者、消費者、教育機関等)ごとに森林総合監理士の活用の呼びかけをまとめたサイトで、より広い層に森林総合監理士活動を普及・啓発できる意義は大きく、今後も、インターネットや各媒体を活用し、継続的に森林総合監理士活動をPRしていく必要がある。

『森林総合監理士ネットワークサイト』は、情報共有の役割を主として、森林管理局での地域課題への取組や全国林業普及指導職員活動約240事例等の全国の先進的・優良事例、平成23～28年度に実施された森林総合監理士に関わる研修関係の蓄積情報(約290名の講師、フィールド)など、森林総合監理士活動に活用できる情報を掲載している。本サイトはログイン・パスワード制となっており、登録者数は1月22日時点で343名となっている。7ブロックごとにコンテンツを設置し、自由に情報を発信、コメント投稿が可能だが、投稿の利用度が低い状況となっており、森林総合監理士同士の情報交換の場として使用してもらえるよう、引き続き情報・発信の工夫が必要である。

技術力維持・向上対策研修・参考資料

実践研修講師リスト(外部講師、林野庁講師)

令和2年度

北海道ブロック

※所属は研修担当時

講義・演習名	講師	所属
オリエンテーション・研修の目的等の説明・アイスブレイク	横山宏幸	北海道森林管理局技術普及課
【講義・机上案作成】 ・基本講義 (木材需給・流通に関する基礎知識) ・グループ演習①	嶋瀬拓也	(研)森林総合研究所北海道支所
	工藤直樹	北海道森林管理局計画課
	長崎正明	北海道森林管理局森林整備第一課
	横山宏幸	北海道森林管理局技術普及課
	中鍵貴之	北海道森林管理局技術普及課
【現地視察・演習】 ・グループ演習② ・コンテナ苗の生産現場の見学 【演習・発表】 ・グループ演習③ ・グループ演習④ ・発表 ・質疑応答	嶋瀬拓也	(研)森林総合研究所北海道支所
	横山宏幸	北海道森林管理局技術普及課
	中鍵貴之	北海道森林管理局技術普及課
【講評】 ・検討結果に対する講評と意見交換 ・まとめ	嶋瀬拓也	(研)森林総合研究所北海道支所
	工藤直樹	北海道森林管理局計画課
	長崎正明	北海道森林管理局森林整備第一課
	井上 純	北海道森林管理局技術普及課

東北ブロック

講義・演習名	講師	所属
【講義】森林作業道とは	斎藤仁志	岩手大学農学部
【講義】森林作業道配置計画の基礎知識	斎藤仁志	岩手大学農学部
【演習】情報技術を用いた森林路網計画の手順と方法	斎藤仁志	岩手大学農学部
【グループワーク】森林作業道配置図の作成	斎藤仁志	岩手大学農学部
	高木善隆	東北森林管理局森林整備部
	木村秀樹	東北森林管理局森林整備部
	中嶋 一	東北森林管理局森林整備部
【演習】森林作業道配置事例の研究	斎藤仁志	岩手大学農学部
	高木善隆	東北森林管理局森林整備部
	木村秀樹	東北森林管理局森林整備部
	中嶋 一	東北森林管理局森林整備部
【演習】【グループワーク】 森林作業配置の現地検討～情報化技術を用いた現地踏査～	斎藤仁志	岩手大学農学部
	高木善隆	東北森林管理局森林整備部
	木村秀樹	東北森林管理局森林整備部
	中嶋 一	東北森林管理局森林整備部
【グループワーク】森林作業配置図の作成 路網配置の決定とその評価	斎藤仁志	岩手大学農学部
	高木善隆	東北森林管理局森林整備部
	木村秀樹	東北森林管理局森林整備部
	中嶋 一	東北森林管理局森林整備部
【発表・講評】	斎藤仁志	岩手大学農学部
	高木善隆	東北森林管理局森林整備部
	木村秀樹	東北森林管理局森林整備部
	中嶋 一	東北森林管理局森林整備部

関東ブロック

講義・演習名	講師	所属
研修の趣旨等を説明	番場 誠	関東森林管理局森林整備部
【講義】シカの生態と被害の現状	岡 輝樹	(研)森林総合研究所
【講義】捕獲と密度管理	飯島勇人	(研)森林総合研究所
【講義】防除対策事例とコスト	飯島勇人	(研)森林総合研究所
日程説明等	番場 誠	関東森林管理局森林整備部
【現地実習】シカ被害の調査法と行動特性の観察	飯島勇人	(研)森林総合研究所
	八代田千鶴	(研)森林総合研究所
	永田純子	(研)森林総合研究所
	竹之内政勝	関東森林管理局群馬森林管理署
【現地実習】 くくりわな設置方法の実習及びシカ柵設置の留意事項	飯島勇人	(研)森林総合研究所
	八代田千鶴	(研)森林総合研究所
	永田純子	(研)森林総合研究所
	竹之内政勝	関東森林管理局群馬森林管理署
【グループワーク】シカ被害対策全体構想の検討	飯島勇人	(研)森林総合研究所
	八代田千鶴	(研)森林総合研究所
	永田純子	(研)森林総合研究所
	竹之内政勝	関東森林管理局群馬森林管理署
【グループワーク】(発表準備)	岡 輝樹	(研)森林総合研究所
	飯島勇人	(研)森林総合研究所
	八代田千鶴	(研)森林総合研究所
	永田純子	(研)森林総合研究所
【グループワーク】(発表、ディスカッション)	岡 輝樹	(研)森林総合研究所
	飯島勇人	(研)森林総合研究所
	八代田千鶴	(研)森林総合研究所
	永田純子	(研)森林総合研究所
【講義】講評及び総括講義	岡 輝樹	(研)森林総合研究所
	飯島勇人	(研)森林総合研究所
	八代田千鶴	(研)森林総合研究所
	永田純子	(研)森林総合研究所

中部ブロック

講義・演習名	講師	所属
オリエンテーション(ガイダンス)	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター
【講義・説明・演習】 ・伐採・造林一貫作業システムについて ・採材・仕分けについて ・伐採計画の演習について	佐々伸也	中部森林管理局資源活用課
	永瀬庄栄	中部森林管理局資源活用課
	加藤 孝	中部森林管理局森林整備課
	大森裕司	中部森林管理局名古屋事務所
2日目の現地検討について	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター
【現地実習】伐採・造林一貫作業システムの現地検討・意見交換	佐々木伸也	中部森林管理局資源活用課
	永瀬庄栄	中部森林管理局資源活用課
	加藤 孝	中部森林管理局森林整備課
	大森裕司	中部森林管理局名古屋事務所
	小竹尚久	中部森林管理局東濃森林管理署
	北沢伸之	中部森林管理局東濃森林管理署
	曾我義孝	中部森林管理局森林技術・支援センター
	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター
安江清文	中部森林管理局森林技術・支援センター	

講義・演習名	講師	所属
【現地実習】伐採・造林一貫作業システムの現地検討・意見交換	目崎拓海	中部森林管理局森林技術・支援センター
【現地実習】市場視察・意見交換	鈴木隆志	木曽官材市売協同組合
【演習】発表準備 伐採・造林一貫作業による主伐及び低コスト造林について 図面、シート等作成	佐々木伸也	中部森林管理局資源活用課
	永瀬庄栄	中部森林管理局資源活用課
	加藤 孝	中部森林管理局森林整備課
	大森裕司	中部森林管理局名古屋事務所
3日目の発表について	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター
【演習】発表(発表準備、発表、ディスカッション)・講師講評	佐々木伸也	中部森林管理局資源活用課
	永瀬庄栄	中部森林管理局資源活用課
	加藤 孝	中部森林管理局森林整備課
	大森裕司	中部森林管理局名古屋事務所
	曾我義孝	中部森林管理局森林技術・支援センター
	筒井雅敏	中部森林管理局森林技術・支援センター

近畿中国ブロック

講義・演習名	講師	所属
実践研修ガイダンス	鳥谷和彦	近畿中国森林管理局技術普及課
【講義】今後の森林づくりの考え方について	植田修司	近畿中国森林管理局計画課
【講義】多様な森林づくりの構想について	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
現地検討の進め方及び発表のとりまとめ方説明	平井信彰	近畿中国森林管理局技術普及課
【演習】現地検討前の打合せ(GW)	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
	植田修司	近畿中国森林管理局計画課
	草深和博	近畿中国森林管理局技術普及課
	鳥谷和彦	近畿中国森林管理局技術普及課
	篠原庄次	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	窪田 武	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	坪倉 真	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
現地検討の進め方説明	平井信彰	近畿中国森林管理局技術普及課
【現地検討】 ・一斉人工造林地における今後の森林施業 (地位等の森林の状況の調査) ・天然力を活用した森林づくり (天然生広葉樹の活用事例の調査)	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
	植田修司	近畿中国森林管理局計画課
	草深和博	近畿中国森林管理局技術普及課
	鳥谷和彦	近畿中国森林管理局技術普及課
	篠原庄次	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	窪田 武	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	坪倉 真	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
【演習】発表とりまとめ(GW) 現地検討結果を踏まえて、「一斉人工造林地における 今後の森林施業」をテーマとして、目標林型等について 検討し、発表をとりまとめ	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
	植田修司	近畿中国森林管理局計画課
	草深和博	近畿中国森林管理局技術普及課
	鳥谷和彦	近畿中国森林管理局技術普及課
	篠原庄次	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	窪田 武	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	坪倉 真	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
本日の進め方説明	平井信彰	近畿中国森林管理局技術普及課
【演習】発表・意見交換・講評	山下直子	(研)森林総合研究所関西支所
	植田修司	近畿中国森林管理局計画課
	草深和博	近畿中国森林管理局技術普及課
	鳥谷和彦	近畿中国森林管理局技術普及課

講義・演習名	講師	所属
【演習】発表・意見交換・講評	篠原庄次	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	窪田 武	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	坪倉 真	近畿中国森林管理局森林技術・支援センター
	中村昌有吉	林野庁研究指導課

四国ブロック

講義・演習名	講師	所属
研修主旨、意図、留意点の説明	古味敏光	四国森林管理局森林技術・支援センター
【講義】 大型製材工場の現状と課題地域の特性に合った木材流通等	砂田和之	株式会社サイプレス・スナダヤ
【講義】 集材架線システムの資料作成の説明(コスト計算等) 簡易な架線集材の見学等	吉良 康	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
【実習】 各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図(集材線・路網)を記入	吉良 康	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
【実習】採材研修	大川容平	高知県森林組合連合会高幡共販所
	吉良 康	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	鷹野孝司	四国森林管理局森林技術・支援センター
	江入力男	四国森林管理局森林技術・支援センター
【実習】 架線集材作業現場見学及び説明(元柱付近)	太郎田佑一	須崎地区森林組合
	吉良 康	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
【実習】 架線集材作業現場見学及び説明(先柱付近)及び架線集材作業現場見学及び各班、事前に1/5000の図面に記入した、搬出系統図(集材線・路網)を現地踏査確認	太郎田佑一	須崎地区森林組合
	吉良 康	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
【実習】 各班で現地踏査等を踏まえた、集材架線システムの資料作成	吉良 康	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
【発表・講評】 各班発表、講評	西山靖之	林野庁研究指導課
	吉良 康	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	横山敬治	四国森林管理局森林整備部資源活用課
	鷹野孝司	四国森林管理局森林技術・支援センター

実践研修修了者名簿

令和2年度

北海道ブロック

※所属は修了日現在

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	北海道	相川 浩子	後志総合振興局 森林室普及課	003
都道府県職員	北海道	大坂 誠	胆振総合振興局 森林室豊浦事務所	005
都道府県職員	北海道	小林 慎哉	渡島総合振興局 東部森林室 普及課	007
都道府県職員	北海道	小林 忠勝	檜山振興局 森林室 北檜山事務所	010
都道府県職員	北海道	白川 伸輔	檜山振興局 森林室	009
都道府県職員	北海道	棚橋 元	日高振興局 森林室 平取事務所	006
都道府県職員	北海道	馬場 敏宏	胆振総合振興局 森林室 普及課	004
都道府県職員	北海道	林 優子	石狩振興局 森林室 普及課	002
都道府県職員	北海道	南出 隆司	渡島総合振興局 西部森林室 普及課	008
都道府県職員	北海道	峰岸 章弘	水産林務部 森林環境局 森林活用課	001
国有林職員	北海道	江刺 光浩	北海道森林管理局 後志森林管理署	011
国有林職員	北海道	坂本 有	北海道森林管理局 日高北部森林管理署	012

東北ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	青森県	佐藤 文宏	東青地域県民局 地域農林水産部 林業振興課	014
都道府県職員	青森県	成田 真智子	三八地域県民局 地域農林水産部 林業振興課	013
都道府県職員	岩手県	川又 翔子	盛岡広域振興局 林務部 林業振興課	015
都道府県職員	岩手県	佐藤 一哉	一関農林振興センター 林業振興課	016
都道府県職員	岩手県	松田 悟	沿岸広域振興局 農林部宮古農林振興センター林務室	017
市町村職員	岩手県	田村 大輔	盛岡市 農林部 林政課	020
都道府県職員	宮城県	堀籠 健人	北部地方振興事務所栗原地域事務所林業振興部	018
都道府県職員	福島県	油井 竜太	県北農林事務所 森林林業部 林業課	019
国有林職員	岩手県	伊藤 研吾	東北森林管理局 盛岡森林管理署 業務グループ	021
民間	岩手県	小野寺 博信	一関地方森林組合	023
民間	岩手県	西城 英寿	一関地方森林組合	022
民間	宮城県	佐々木 翔太	宮城県森林組合連合会	025
民間	宮城県	鳥居 創太	丸森町森林組合	024

関東ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	埼玉県	田畑 琢己	秩父農林振興センター 林業部	047
都道府県職員	神奈川県	松本 開地	県央地域県政総合センター 農政部 森林保全課	048
都道府県職員	山梨県	依田 勇二	峡南林務環境事務所	049
国有林職員	栃木県	岩崎 諭	関東森林管理局 塩那森林管理署 業務グループ	050
民間	茨城県	佐藤 信聡	茨城県森林組合連合会 総務企画部	051
民間	栃木県	関口 啓	(株)栃毛木材工業	052
民間	埼玉県	新井 和幸	新井森林サービス(株)	053
民間	神奈川県	杉本 貴広	(有)杉本林業	054
民間	兵庫県	吉井 輝和	NPO法人バイオマス丹波篠山	055

中部ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	福島県	福地 雅弘	県北農林事務所 森林林業部 林業課	035
都道府県職員	岐阜県	徳川 隆之	恵那農林事務所 林業課	038
都道府県職員	岐阜県	古川 明里	西濃農林事務所 林業課	037
都道府県職員	岐阜県	和田 将也	郡上農林事務所 林業課	039
都道府県職員	静岡県	岩間 慎太郎	中部農林事務所 森林整備課	041
都道府県職員	静岡県	鈴木 美南	中遠農林事務所 森林整備課	040
都道府県職員	愛知県	斎場 勇治	豊田加茂農林水産事務所 林務課(普及担当)	042
都道府県職員	滋賀県	柴崎 大樹	西部・南部森林整備事務所 高島支所	043
都道府県職員	奈良県	西 卓宏	食と農の振興部 中部農林振興事務所 農林普及課	044
都道府県職員	和歌山県	山本 将功	西牟婁振興局 農林水産振興部林務課	045
国有林職員	岐阜県	中澤 栄貴	中部森林管理局 東濃森林管理署 治山グループ(中津川治山事業所)	046
民間	長野県	大瀧 秀明	(株)柳沢林業 山林事業部	036

近畿中国ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	京都府	川勝 隆之	農林水産技術センター農林センター 森林技術センター	026
都道府県職員	兵庫県	倉橋 路枝	兵庫県立農林水産技術総合センター 森林林業技術センター	028
都道府県職員	兵庫県	山下 毅	中播磨県民センター 姫路農林水産振興事務所 森林課	027
都道府県職員	岡山県	鹿島 拓也	農林水産部 森林企画課	030
都道府県職員	岡山県	古谷 優平	美作県民局 農林水産事業部 森林企画課	029
国有林職員	和歌山県	香川 直樹	近畿中国森林管理局 和歌山森林管理署 業務グループ	031
国有林職員	島根県	掛部 晋	近畿中国森林管理局 島根森林管理署 業務グループ	032
民間	兵庫県	足立 健浩	北はりま森林組合 事業課	034
民間	岡山県	斉藤 純一	山陽商事(株) フォレストデザイン事業部	033

四国ブロック

区分	都道府県	名前	所属	修了者番号
都道府県職員	奈良県	内田 純嗣	森林技術センター 森林管理市町村連携課	056
市町村職員	徳島県	泉原 英和	上勝町 産業課	060
都道府県職員	愛媛県	井手 紀文	東予地方局産業経済部 森林林業課(四国中央森林林業振興班)	057
都道府県職員	福岡県	田中 卓	八幡農林事務所 林業振興課	058
都道府県職員	大分県	小関 崇	農林水産部 林務管理課	059
国有林職員	徳島県	田上 弘樹	四国森林管理局 徳島森林管理署	061
国有林職員	高知県	後藤 和昭	四国森林管理局 安芸森林管理署 業務グループ	063
国有林職員	高知県	中岡 正樹	四国森林管理局 森林整備部 資源活用課	062
国有林職員	高知県	森下 嘉晴	四国森林管理局 安芸森林管理署 安芸・入河内森林事務所	064
民間	兵庫県	寺下 直美	(株)山本木材(寺下林業)	066
民間	兵庫県	山本 定夫	(株)山本木材	065
民間	徳島県	西 利一	一般社団法人かみかつ森林環境公社	067
民間	徳島県	武岡 功展	木頭森林組合	068
民間	高知県	東 弘幸	(株)木こり屋	069
民間	高知県	岡林 栄臣	(株)木こり屋	070
民間	高知県	曾我部 文雄	(有)式地林業	071

実践研修

●●ブロック 1日目 ふりかえりシート

班: _____

所属組織名: _____

氏名: _____

受講生No.: _____

<p>講義や演習で学んだことのポイントやキーワード 印象に残った講師や他の受講者の言葉を記録・整理</p>	
<p>研修後、職場(現場)でさっそく調べたいこと、 確認したいこと・取り組みたいことを記録・整理</p>	
<p>自分の知見を高めるために、 もっと詳しく知りたい、学びたいこと、 難しかったこと・わからなかったこと</p>	

実践研修

●●ブロック 最終日ふりかえりシート

班: _____

所属組織名: _____ 氏名: _____ 受講生No.: _____

3日間の実践研修を終えて、新たに見えてきた自分自身の課題、
新たに獲得したこと、得た知識・情報、ポイント等を整理・記録しましょう

実践研修アンケート調査票

参考資料1-4

令和2年度 市町村支援技術者養成事業

〇〇ブロック 技術力維持・向上対策研修(実践研修)評価アンケート調査票

今後の研修を効果的に実施するための参考資料としますので、率直なご意見・ご要望等をご記入下さい。

ボールペン等で濃くご記入くださいますようお願いいたします。

所属組織名: _____ 氏名: _____ 受講生No: _____

I 森林総合監理士資格の有無

該当欄の数字に○を付けて下さい。

(1) 森林総合監理士資格の有無

森林総合監理士	資格なし
1	2

II 本研修に対する理解度、活用度

該当欄の数字に○を付け、理由等を【コメント】欄にご記入下さい。

(1) 研修内容についてどの程度理解できましたか？

【コメント】

できなかった					できた
1	2	3	4	5	

(2) 今後、森林総合監理士等の活動を行う上で、どの程度活用できそうですか？

【コメント】

できない					できる
1	2	3	4	5	

III 本研修に対する全体としての満足度、運営に対する評価

該当欄の数字に○を付け、理由等を【コメント】欄にご記入下さい。

(1) テーマの設定について(※森林総合監理士等の活動を行う上での評価として下さい)

【コメント】

低い		満足度		高い
1	2	3	4	5

(2) テーマに対するカリキュラムの内容について

【コメント】

低い		満足度		高い
1	2	3	4	5

(3) カリキュラムの時間について

【コメント】

低い		満足度		高い
1	2	3	4	5

(4) 研修の進行・運営の流れについて

【コメント】

良くなかった				良かった
1	2	3	4	5

IV その他

自由に感想をお書き下さい。(研修の中で特に印象に残ったこと、来年に向けての提案等)

ご協力ありがとうございました。

実践研修タイムスケジュールの事例

日程	予定		実績		講義等の名称	内容等	形態	担当	
	開始時間	所要時間	開始時間	所要時間					
11月11日 (水)	11:00	1:00	10:55	0:32	スタッフミーティング	各班にホワイトボードを構える	その他		
	13:00	0:30	12:59	0:31	開講式 自己紹介の時間は、開校式の残り時間とする	・開講あいさつ (四国森林管理局) (林野庁) ・講師 ・スタッフ等の紹介 ・研修の目標・進め方・確認 ・スケジュール紹介 ・事務連絡(受講の手引きと研修運営事務局) ・班内での自己紹介など ・アンケート調査票を配布	その他	森林管理局	
	13:30	1:30	13:30	1:28	大型製材工場の現状と課題・地域の特性に合った木材流通について		講義	外部講師	
	15:00	0:10	14:58	0:11	休憩		その他		
	15:10	1:00	15:09	1:00	架線系作業システムについて 電動集材機を使って策張り(見学・作業)	架線系作業システムの資料作成の説明 (コスト計算) 簡易な架線取材の見学 研修生等ヘルメット・手袋を持っていくようにアナウンスすること。	講義	森林管理局	
	16:10	0:10	16:09	0:11	休憩		その他		
	16:20	0:20	16:20	0:37	各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図 (集材線・路網)を記入。	各班、机上で1/5000の図面に搬出系統図(集材線・路網)を記入。	実習	森林管理局	
	16:40	0:20	16:57	0:23	ふりかえり	1日目のふりかえりシート配布 回収 ※明日の現地実習の説明(簡潔に) 明日の現地説明についてアナウンスすること。	その他		
	17:00		17:20		1日目終了				
	17:00		17:00	17:15	スタッフミーティング				

日程	開始時間	所要時間	開始時間	所要時間	講義等の名称	内容等	形態	担当
11月12日 (木)	8:00	2:00	7:57	2:19	現地へ移動(島ノ川山)	準備物は、前日にD5に積み込む ・布施ヶ坂の駅でトイレ休憩(10分以内) 10:10までに着予定 研修生はジャンボタクシーで移動 (1台へ4人)スタッフ4名がジャンボタクシーに乗る 1号車(森林管理局) 2号車(森林管理局) 3号車 (森林管理局) 4号車(森林管理局)		
	10:00	0:10	10:16	0:17	移動準備	ジャンボタクシーは、集材機手前で下車	その他	
	10:10	1:00	10:33	1:12	採材研修 採材木は、ヒノキ等で各班に1本用意し(全部で4本) 各班で1本毎に採材し、その結果を発表しても らう その結果を、外部講師に講評(結果)をしても らう	全体:外部講師 各班への担当講師 1班:森林管理局 2班:森林管理局 3班:森林管 理局 4班:森林管理局 準備物(電卓、輪尺、メジャー、単価表、野帳、野帳 板) (丸太材積表・立木材積表) パソコン、机、椅子 拡声器	その他	森林管理局 外部講師
	11:10	0:40	11:45	0:15	架線集材作業現場見学及び説明(元柱付近)	・事業地の説明(40分)	説明 演習	外部講師
	11:50	0:40	12:00	0:30	昼食	現地昼食 ※昼休みにドロロンをあげるかも	その他	
	12:30	1:20	12:30	1:22	架線集材作業現場見学及び説明(先柱付近) 搬出系統図(集材線)を現地確認 現地説明等を30分 架線図面修正を50分	・事業地の説明(40分)須崎地区森林組合 ・架線集材の説明後、各班がそれぞれ行きたい所へ ジャンボタクシーで移動する。 ・各班が架線等の確認した後、13時50分までに森林 組合休憩小屋に集合する。	説明 演習	森林管理局 外部講師
	13:50	0:10	-	-	休憩		その他	
	14:00	2:00	13:52	2:08	四国森林管理局へ移動	布施ヶ坂道の駅でトイレ休憩		
	16:00	0:10	16:00	0:10	休憩		その他	
	16:10	0:30	16:10	1:10	集材架線システムの資料作成	資料作成について、再度、説明。		森林管理局

日程	開始時間	所要時間	開始時間	所要時間	講義等の名称	内容等	形態	担当		
	16:40	0:20	17:20	0:20	ふりかえり	2日目のふりかえりシート配布 回収	その他			
	17:00		17:40		2日目終了					
			17:30	0:25	スタッフミーティング					
					終了					
3日目 11月13日 (金)	8:15	1:45	8:15	1:45	発表資料作成 パワーポイントで発表	事前に撮影した、ドローン映像を流す。 ・8:15～9:30 図面作成及びプレゼン作成 ・9:30～10:00 プレゼン発表練習	グループ ワーク			
	10:00	0:10	10:00	0:12	休憩					
	10:10	1:30	10:12	1:19	発表				発表順番は、 ①16名(4班) ②各班20分(10分発表、8分質疑応答) ③講評:18分 資源活用課長	
	11:40	0:25	11:31	0:20	ふりかえり(記入と共有) アンケート記入 閉講式 解散				閉講式の挨拶は、森林技術支援センター所長 閉会式後に集合写真撮影	その他
	12:05	0:30	11:37	0:20	スタッフの3日間の反省会 全日程終了					

研修における新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について (研修生への要請事項)

林業成長産業化構想技術者育成研修及び技術力維持・向上対策研修の研修実施に当たって、下記のとおり新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）の感染防止対策を実施しますので、下記の要請事項等の遵守をお願いします。

記

1 研修受講前に関する事項

(1) 研修受講前の体調管理について

万全の体調で研修に臨むため、日頃から体調管理に努めてください。また、受講前の2週間は毎日（できれば朝夕2回）検温の上、各自の体調等について、別紙「体温・体調等記録用紙（表）」に記録し、受講の可否の判断材料としてください。

なお、当該記録用紙は、研修14日前から研修開始日を（表）面に、研修開始日から研修終了日までを（裏）面に記載する様式になっていますので、両面印刷の上、研修開始日までの状況を（表）面に記載し、研修に持参してください。

(2) 研修受講の可否の判断について

ア 受講の取りやめ

以下のいずれかに該当する方は、受講を見合わせてください。

- ① 研修前2週間以内に発熱等の症状が見られた者（※新型コロナが疑われる場合以外であっても、体調不良者は参加を見合わせてください）
- ② 国・地域を問わず、海外からの帰国後2週間以内の者
- ③ その他、同居親族等の家庭内又は職場の同僚などの感染が確認される等、感染のおそれがある者

イ 受講を要検討

以下のいずれかに該当する方は、受講の可否を慎重に検討願います。

- ① 基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患ほか）がある者、透析を受けている者、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている者など、重症化しやすいとされている者
- ② 研修前2週間以内に大規模イベント等（ライブハウス、コンサート等）に参加した者

ウ その他

感染が拡大している地域等からの研修生は、当該都道府県等の方針（県外への移動自粛要請等）に基づき、研修受講について判断願います。

(3) 来場までの間の感染防止等について

ア 研修会場への来場の際、公共交通機関の利用にあたっては、感染防止にご留意ください。なお、利用した移動ルート（自宅最寄駅等⇄研修会場最寄駅等）の便名・座席番号等を控えておいてください。

イ 来場時に検温を実施し、体調の聞き取りを行います。その際、発熱症状等が

ある場合は、研修参加を取りやめ、そのまま帰宅等していただきます。

(4) 厚生労働省配布の接触確認アプリの活用（スマートフォン所有者のみ）

各自のスマートフォンに、厚生労働省が配布する新型コロナの陽性者と接触した可能性について通知を受け取ることのできるアプリをインストールし、研修受講の可否の判断材料としてください（※詳しくは厚生労働省HPを参照）。

2 研修中に関する事項

(1) 持参品について

各研修生は、マスク、体温計を必ず持参願います（マスクは研修期間中に必要な枚数）。

(2) 研修中の感染防止対策について

ア 毎朝、研修スタッフが体調不良者の有無を確認しますので、研修生は各自で毎朝夕検温し、別紙「体温・体調等記録用紙（裏）」に体調その他参考事項等（メモ欄）を記録いただきます（記録用紙は研修最終日に提出）。

イ 研修初日に実施していた意見交換会は、開催を見合わせます。

ウ 研修時間外においても不要な外出は避け、常識的判断に基づき、節度ある行動をとるよう心掛けてください。

(3) 講義・実習中の感染防止対策について

ア 研修中は、可能な限り、人を密集させない環境の整備に努め、屋内での講義では換気を励行します。

イ 研修会場内及び演習地までの移動車中では、マスクを着用していただきます。また、演習中も状況に応じてマスク等の着用をお願いします。

(4) 体調不良者の取扱いについて

ア 新型コロナの疑い如何に関わらず、体調不良者は即時研修を中止し、帰宅等していただきます。

イ 感染のおそれがない体調不良者の場合、必要に応じて病院で診察後、医師の診断結果に基づき帰宅・入院等いただきます。

ウ 感染が疑われる場合（濃厚接触者であることが判明した場合等を含む）、保健所等の指示に基づき対処します。また、帰宅方法等は、保健所や研修生の所属機関とも協議の上、決定します。

3 研修受講後に関する事項

研修終了（帰任）後2週間以内に体調不良となる等、当該研修受講時には既に新型コロナに感染していたおそれがある場合は、至急、研修事務局に連絡願います。

4 その他

感染拡大状況等によっては、研修開始前に、急遽、研修を中止する場合があります。また、研修生に新型コロナが疑われた場合等は、研修実施中であっても、保健所等の指示に従い、即時研修を中止し、全研修生を帰宅等させる場合があります。

体温・体調等記録用紙（表）

（研修受講14日前からの状況）

*新型コロナウイルスの最大潜伏期間はおおむね14日間といわれています。

*本記録用紙には、研修14日前から研修開始日までの発熱等の症状と健康状態をセルフチェックしていただくものです。

*この期間に体調不良を感じた場合には、無理せず、職場と相談の上、他の研修生のためにも受講について再検討してください。

*個人情報の取り扱いには十分注意し、感染対策以外では使用しません。

所 属		研 修 名	技術力維持・向上対策研修
ふりがな		研修区分	北海道ブロック（北海道函館市）
氏 名		研修期間	令和2年9月1日（火）～9月3日（木）

日付	体温測定時間	体温(°C)	【新型コロナ感染症を疑う症状】 発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐、味覚や嗅覚の異常など		【参考1】 医療機関の受診・解熱鎮痛薬の内服など	【参考2】 「三密」状態になるなど感染リスクが高いと思われる外出先(場所)・相手方など
			<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月18日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月19日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月20日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月21日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月22日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月23日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月24日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月25日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月26日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月27日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月28日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月29日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月30日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
8月31日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
9月1日 (当日)	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 ()		

【注】「三密」状態:①換気の悪い密閉空間、②大勢がいる密集場所、③間近で会話する密接場面が重なる状態

体温・体調等記録用紙（裏） （研修期間の状況）

*本記録用紙には、研修開始日から研修終了までの発熱等の症状と健康状態をセルフチェックしていただくものです。
 *研修期間に体調不良を感じた場合には、速やかに研修スタッフに申し出てください。
 *本記録用紙は、最終日に提出してください（本記録用紙は研修終了後2週間保存後、廃棄します）。
 *個人情報の取り扱いには十分注意し、感染対策以外では使用しません。

所 属		研 修 名	技術力維持・向上対策研修
ふりがな		研修区分	北海道ブロック（北海道函館市）
氏 名		研修期間	令和2年9月1日（火）～9月3日（木）

日付	体温測定時間	体温(°C)	【新型コロナ感染症を疑う症状】 発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐、味覚や嗅覚の異常 など		【参考1】 医療機関の受診・解熱鎮痛薬の内服など	【参考2】 ・宿泊施設名称 ・研修中に利用した食堂等の名称など
			<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
9月1日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
9月2日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
9月3日	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		
	:		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有（ ）		

【メモ1】
班のメンバーの氏名

①	②	③
④	⑤	⑥

【メモ2】
班のメンバー以外で研修中（時間外を含む）に間近で会話する場面があった方（スタッフを含む）の氏名

①	②	③
④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨

【注】濃厚接触：1mの距離（目安）で、マスク等を着用せずに15分以上の接触があった者（喫煙所・会食など）

技術力維持・向上対策研修（実践研修）

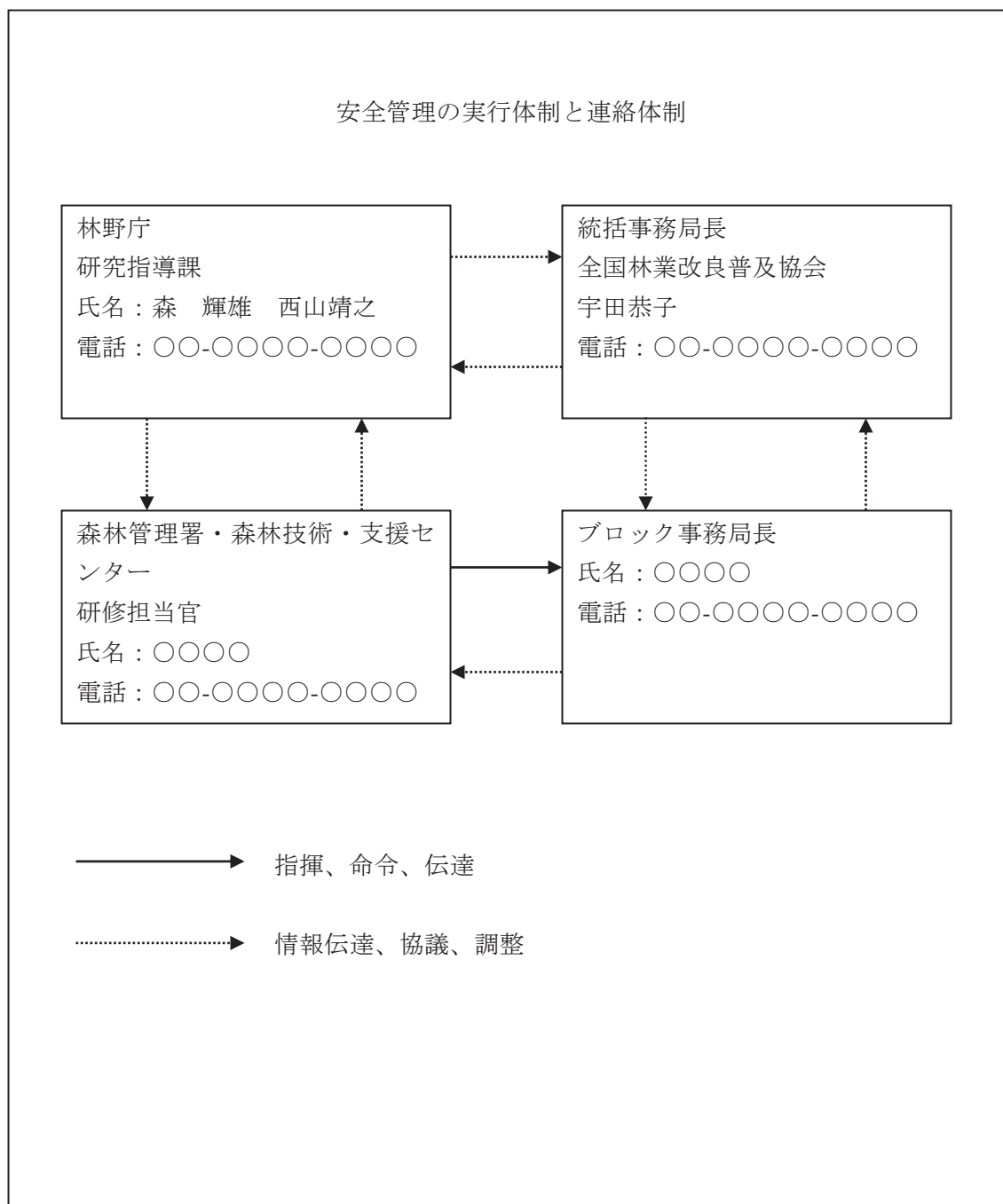
安全管理計画書

安全管理マニュアル

〇〇ブロック

1 安全管理の実行体制と連絡体制

現地においては森林管理局研修担当官の指示のもと、指揮・確認・情報伝達の体制は下記のとおりとする。



2 安全管理の事前確認

(1) 受講者情報の事前確認

下記①、②、③については、統括事務局が事前に照会並びに案内を行うので、①、②については一覧(名簿)にて、③については研修開始時に確認する。

① 受講者及び研修派遣元の情報

【受講者】 氏名、住所、電話番号、救急時連絡先電話番号、年齢、血液型、蜂アレルギーの有無及び蜂アレルギーの程度、研修参加にあたり健康上での留意事項等

【派遣元】 名称、住所、電話番号、緊急時連絡先(担当者氏名、電話番号)

② 受講者の派遣元における保険の加入情報

③ 服装、保安帽の準備

受講者へあらかじめ、袖、裾締まりのよい服装での参加、及び山歩きに適した靴(長靴等)、保安帽等安全具の用意を伝えること。蜂の活動期については、現地実習等で着用する衣服は、黒っぽいものを避けること。

(2) 研修場所、研修機械器具、救急薬品等の整備

① 研修は安全に実施できる場所を選定すること。

② 研修場所及び周辺を研修内容に即して事前に確認し、危険箇所(急傾斜、浮き石、蜂の巣等)を把握し、危険箇所にはテープ等で表示すると共に、現地実習実施前に必ず注意を促し、近づかないよう回避する。

③ 事故時に受講者が退避できる安全場所を確認しておくこと。

④ 救急車との合流場所を確認しておくこと。(救急車は林道等の悪路走行が困難なことがあるので、合流地点は人家近くが望ましい。)

⑤ 現地実習の現場も含め携帯電話の使用の可否を確認し、研修中の連絡体制が確保されていることを確認すること。(図面を作成し、会社によって使用可能なものや不可能なものがあるので複数の会社で試験してみる。)

なお、(特に現地実習現場において)受信範囲が極端に狭い、圏外のエリアがほとんど、というような場合は、統括事務局へ相談する。

⑥ 研修会場まで車で移動する場合は、事前に安全な経路を確認すること。

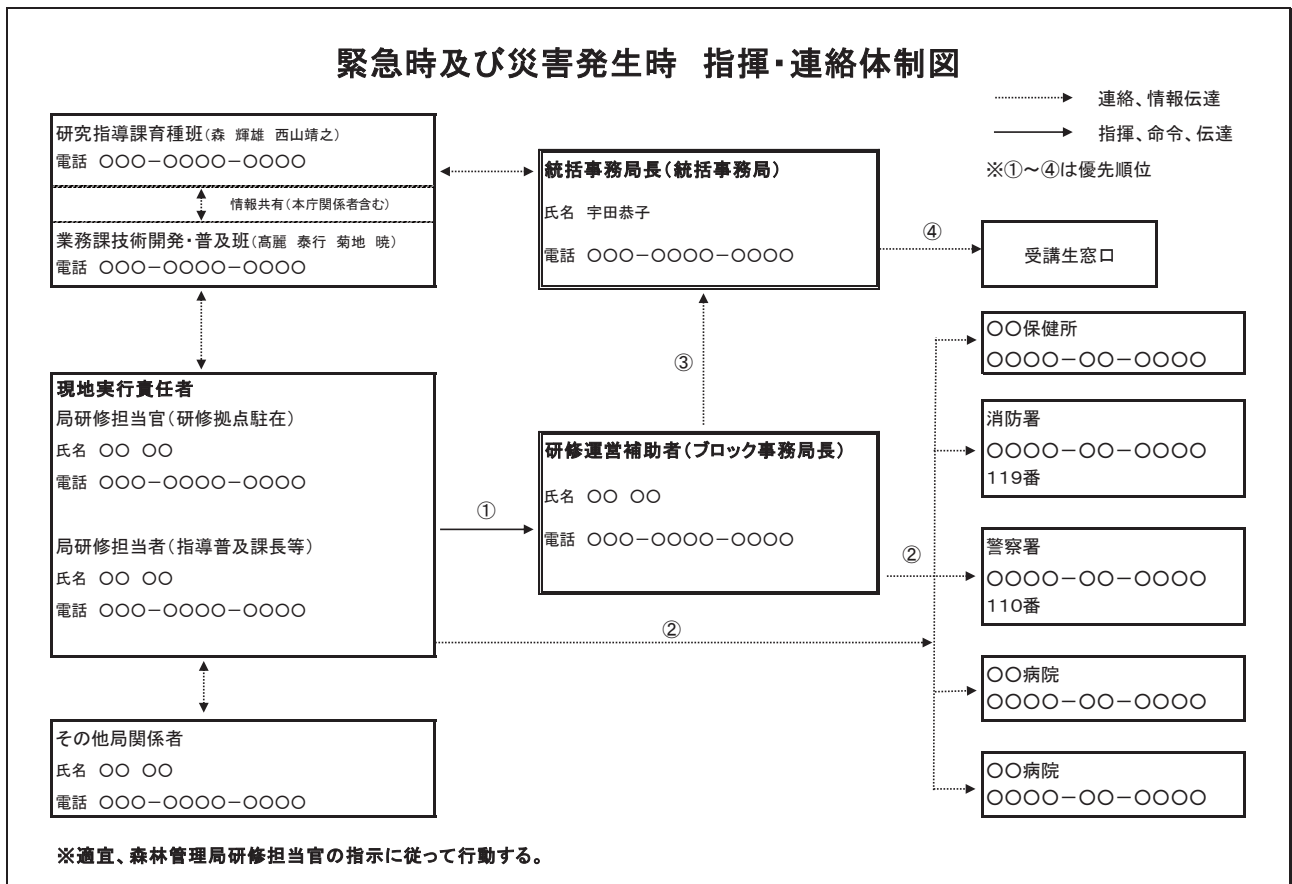
⑦ けが人、急病人等の搬送手段、搬送医療機関を確認しておくこと。

⑧ 研修で使用する器具等の点検を行い、整備不良等に伴う危険因子の排除に努めること。

⑨ 携帯用救急薬品等の点検を行い、不足・不良や期限切れの無いようにすること。

(3) 緊急時及び災害発生時 指揮・連絡体制の整備

緊急時の指揮・連絡体制は、下図のとおりとする。



3 研修実行時の安全管理

(1) 研修の実行

1) スタッフミーティング

研修開始前には、研修スタッフの他、講師、局研修担当官等を交えて、研修の内容、各スタッフの役割、研修の手順、実習内容、人員配置、受講者の出欠状況等の確認を行う。また、研修内容、天候、危険要因等の認識の一致を図る。

さらに、現地実習日の前日に開催される反省会において安全管理について再確認を行う。

2) 研修参加者の安全確保

①研修会場へ車を使用して移動する場合は、交通事故に注意するよう注意喚起を促すこと。現地実習会場へ移動する場合は、当日の工事車両等の有無を確認する。

②研修参加者に対し、安全に関する基本的事項を説明し、身体保護のための被服、防護具は正しく装着するよう指導・確認する。

・保護帽は正しく装着し、あご紐は正しく締めること。

・作業服は袖、裾締まりの良いものを着用すること。

③研修参加者に対し、ヒヤリ・ハット事例があった場合の報告を徹底させること。

④現地実習などでは、次の安全活動を徹底する。

○KYT(危険予知訓練)

危険個所に対する感受性を高めるとともに、問題解決能力の向上を図る。

○リスクアセスメント

現場における災害原因を分析し、事前排除に努める。

○指差呼称による確認

作業行動の要所で対象物を確認し、発声により意識を覚醒させ、うっかり災害を防止する。

○相互注意運動

お互いに不安全行動を指摘し合い、その改善を図る。

○4S運動

整理・整頓・清潔・清掃を行う。研修後の後始末を確実に行う。

○生産・工事現場の確認

機械が動いている生産・工事現場などをあらかじめ確認しておき、近づいたりしないこと。

○研修中の怪我に際しての対応

研修中の怪我により医療機関での処置が発生した場合、その怪我の状況、病院・診療所名、その後の経過を所属機関担当者に報告し対応を引き継ぐ。

3) 救急薬品等の携帯

現地実習の場合は、携帯用救急薬品等を必ず携帯すること。

4) 荒天時の対応(研修中)

研修中の天候急変等異常時には、次によることとする。

①中断、中止の判断は、現地実行責任者が決定し、ブロック事務局長が結果を統括事務局に報告する。

②一時的に避難する箇所を確保するとともに、下山については、集中豪雨、強風等による道路

事情を十分検討し、現地実行責任者等の慎重な判断指揮のもとに、余裕をもった行動をとること。

③退避場所(休憩所を含む)は異常出水、転落石、崩土等の危険を十分点検して選定すること。

④林道等道路上の待機、退避、または駐停車については、谷筋、岩石地、路肩法面の高い所、橋梁上等危険な箇所を避けること。

(2)研修終了後の確認

1)スタッフミーティング

研修終了後は、必要に応じ、局研修担当官等の参加を得て、研修に係る安全管理についての内容等について、事前打ち合わせどおり実施できたか確認を行うとともに、研修全体を振り返り、今後に向け安全で効果的な研修方法についての改善策をまとめる。

さらに、研修中に発生した「ヒヤリ・ハット」事例を報告し合い、発生原因、再発防止対策をまとめる。

【ヒヤリ・ハット事例報告項目】

①日時	
②場所	
③内容	
④状況	
⑤発生原因	
⑥再発防止策	

2)ヒヤリ・ハット事例報告

ヒヤリ・ハット事例と再発防止策を局研修担当官と統括事務局に報告する。

■付表1 チェックリスト

1. 事前確認

- 連絡体制図を(通常時、緊急時)を作成しているか
- 参加者は労災保険又は傷害保険に加入しているか
- 受講者にあらかじめ、袖、裾締まりのよい服装での参加、保安帽等安全具の用意を伝えたか
- 参加者に蜂アレルギー者がいないかを確認したか
- 現地実習箇所について、事前に蜂等の危険因子を回避したか
- 現地の事前確認を行ったか
 - 安全面で研修開催可能な場所か
 - 安全に研修できる地山勾配か
 - 浮き石が無いか
 - 蜂の巣(有・無)有の対策：研修箇所から外し、周知を徹底する
 - 危険箇所がないか(崖、水量の多い谷等)
 - 怪我人の搬送方法を確認したか
 - 安全に研修出来るスペースは確保できるか
 - 携帯電話の使用の可否を確認し連絡体制確保を確認出来たか
- 最寄りの病院の位置図、経路を確認したか
- 研修で使用する器具等の点検を行ったか
- 現地の天候(予報)を確認したか
- 携帯電話が繋がらない箇所の場合の対応策はとられているか

2. 持ち物

- マニュアル(緊急連絡網)
- 救急箱
 - バンドエイド
 - 薬(消毒薬、湿布等)
 - 包帯
 - 三角巾(グループ分けした場合は各班毎)
 - タオル
 - ポイズンリムーバー
 - 蜂スプレー(季節による)
 - ガーゼ
 - 抗ヒスタミン軟膏(蜂刺され用)(使用期限を確認すること)

3. 研修中

- 受講者が危険な行為をしていないか
- 怪我または気分の悪くなった受講者はいないか
- 上下作業になっていないか
- 受講者が作業危険区域内に立ち入っていないか(伐採区域等)

付表2 災害発生現場からの連絡事項(チーフ(現地責任者)連絡用)

災害発生現場からの連絡事項

- 1 連絡者の氏名 私は〇〇です。
- 2 災害の概要
 - (いつ) 〇〇時△△分に
 - (どこで) 〇〇研修の現場で 〇〇市〇〇町〇〇 付近には〇〇があります
 - (だれが) 〇〇(氏名)が
 - (何を) 〇〇作業中に
 - (どうして) 〇〇したところ
 - (何により)
 - (どうなった) 〇〇(部位)を〇〇した。
- 3 傷病者の容態
 - (意識) ある・ない
 - (呼吸) している・弱い・ない
 - (出血) ある(多い・少ない/部位:)・ない
 - (骨折) 骨折はある(部位:)・ない・不明
 - (手当等) 止血、薬を服用・塗る 等
 - (その他)
- 4 救急車の要否
 - ・救急車は必要・不要
 - ・救急車との合流は〇〇地点(合流点までの距離、歩道の距離)
 - ・輸血は必要・不要
 - ・血液型はR h (プラス・マイナス)(A・B・O・AB)型
 - ・搬送等の手段 〇〇で下山、合流地点まで〇〇分くらい
- 5 搬送先の医療機関

※連絡は、救急隊への引き継ぎ後、または、医療機関への搬送後に速やかに行うこと。

事故発生確認事項

連絡者の氏名確認		
災害の概要	いつ	月 日 時 分
	どこで	研修の現場・ (市・郡) (町・村) で
	だれが	(年齢)
	どんな	作業中 でケガをしました。
発生原因		
傷病者の様態		ケガの状況は (意識) ある ・ ない (呼吸) ある ・ ない (出血) ある ・ ない (骨折) ある ・ ない ・ 不明
救急車の要否		必要 ・ 不要
(※)必要に応じて		・救急車の合流地点 ・傷病者の住所 ・傷病者の電話番号 ・輸血 必要・不要 ・血液型 A・B・O・AB型 (R h プラス・マイナス) ・搬送医療機関
現場概況		天候 : 晴れ、曇り、雨、雪 樹種 : スギ、ヒノキ、その他針()、広葉樹 樹高 : m 太さ : c m 地山 : 勾配、土質(砂質、粘性、礫混じり、岩、その他()) その他 :

緊急時の現場行動マニュアル



通報 研修中断指示・現場安全確保
(発見者) (チーフ、サブ)

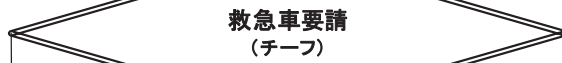
- ①発見者はチーフ(〇〇〇〇)、サブ(〇〇〇〇)に通報、直ちに研修を中断
- ②チーフ、サブは現場確認・安全確保(落石、蜂等)
- ③受講生は予め決めた安全場所で待機
- ④チーフは救急車要請、サブは森林管理局・統括事務局へ第1報

現場携帯用

チーフ: 局研修担当官
(担当者 氏名、電話番号)

サブ: 研修運営補助者
(ブロック事務局)
(担当者 氏名、電話番号)

情報の流れ



必要なし

必要

- ・頭をぶつけた
- ・マムシに噛まれた
- ・ハチに刺された
- ・出血が激しくとまらない
- ・骨が折れているようだ
- ・呼吸・脈拍が感じられない

助務者確保
(チーフ)
受講生に助務を依頼

消防通報・研修中止・助務者確保(チーフ)

- ①消防(119番)へ通報、サブへ救護指示
- ②研修を中止し、受講生に助務を依頼
- ③チーフは森林管理局・統括事務局へ第2報、サブは被災者救護等

第1報

サブ

第2報

チーフ

被災者救護・応急対応(サブ)

- ①助務者と協力して被災者を安全場所へ誘導
- ②助務者と協力して被災者の応急対応(統括事務局用意の緊急対応マニュアル等を参考にできる範囲で手当て)
- ③チーフは被災者の負傷程度を林野庁・管理局に、サブは統括事務局へ報告(第3報)

第3報

チーフ

現場安全確認後
研修再開・中止
(チーフ)

被災者搬出(サブ)

- ①サブは被災者を人家近くの救急車合流地点まで搬送
- ②助務者は救急車誘導指示

チーフ

救急車で搬送(サブ)

- ①サブが救急車に同乗、助務者は救急車に随行
- ②救急車が到着したらチーフは森林管理局・統括事務局へ報告(第4報)、サブは救急車で搬送(搬送後の状況についてはチーフに報告)

第4報

チーフ

公用車等で搬送
(研修関係者)

搬送後の現場対応(チーフ)

チーフは現場に残り、

- ①救急車が出発したら報告(第5報)
- ②受講生に研修会場の後片付け、帰宅指示
- ③警察の現場検証に協力・立会
または、現場記録(写真・見取り図)作成

第5報

チーフ

医療施設での対応(サブ)

- ①サブは医療施設に到着後チーフへ報告、所属関係機関にチーフは報告(第6報)
- ②サブは処置後チーフへ状況報告

第6報

チーフ

管理局・統括事務局

林野庁

本事業で使用している研修関係用語の説明

実践研修では、より研修効果を上げるため様々な工夫をしながら実施している。それらの取り組みに関係する用語を中心として説明する。

○アイスブレイク

「アイスブレイク」とは、参加者の心や、初対面の参加者同士、スタッフ間との間に張った緊張の氷(アイス)を壊す(ブレイキング)時間である。研修の初日のオリエンテーション等で取り入れている。一般的には自己紹介の時間などを兼ねて簡単なゲームを行う。班内の受講生同士の自己紹介や課題等を決められた時間で話したり、誕生日でグループになり文等を交えた自己紹介などその場の雰囲気に合わせて多様なアイスブレイクを行っている。

○アイランド形式

演習(グループワーク)が多いことから、班(4～5人)ごとに机を配置する「アイランド形式」を取り入れている(ブロックによっては、開講式からこの形式で行っている)。アイランド形式は、講師やホワイトボード(スクリーン)が見えにくい場所もあるが、班の受講生同士のコミュニケーションを促し、気軽に意見交換し、意識を共有しやすい環境づくりに役立つ。

その他の配置としては、教室型、シアター型、半円型、円型がある。

○OKP法

演習においてプレゼンテーションなどを行う際に使用している。

ポイントが書かれたA4版の紙(紙芝居)を黒板やホワイトボードに貼り付けながら話を進める手法をKP(紙芝居プレゼンテーション)法といい、発表者がポイントを分かりやすく整理、見える化し、伝える手法である。

○スタッフミーティング

研修を円滑に実施していくため、カリキュラムの進行や参加者についての情報をすべてのスタッフで共有するため、研修実施前、研修期間中、研修終了後に全スタッフ、外部講師も参加してミーティングを行っている。

特に研修終了後のミーティングでは、最後に書いたふりかえり用紙やアンケートを全参加者が読み、そこから気がついたことや自分が思ったことを発表していく(このミーティングでは、建設的な意見が出やすい雰囲気づくりを心掛けることが大事である)。

なお、この場でも出された改善点やアイデアなどは、運営補助者が作成する実施報告書等で共有するようにしている。

○ふりかえり

学んだことを自分のこととして考えてもらうため、カリキュラムの中に「ふりかえり」の時間を設けている。

自身でふりかえりの時間で考えたことや新たな気づき、帰ってからすぐに活用できそうな点、自

分なりにもう一度整理、確認しなければならない点等を具体的に書き、言葉化することである。また、グループで読み合い、共有する。そして、なによりも重要なことは、研修の成果として、言葉にしたことを受講生に持ち帰ってもらうことを目的としている。

なお、ふりかえりの際に使用する用紙を「ふりかえりシート」という。

○ペチャクチャタイム(PKT)

講義の合間や演習での発表後に、講義や発表を受けての感想や疑問点、助言等を班ごとに話し合う時間を適宜設けている。この時間を「ペチャクチャタイム」と呼んでいる。この時間を設けることにより、他の受講生の考えを聞くことで、自分の立ち位置や別の視点からの気づきを促し、より理解を深め、質問や意見を出しやすい雰囲気を作ることができる。

○ワークショップ

「ワークショップ」は一方通行的な知識や技術の伝達でなく、参加者が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で何かを学び合ったり創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイルとして定義されている。ワークショップの実施に当たっては、ファシリテーターと呼ばれる司会進行役の人が、参加者が自発的に作業する環境を整える重要な役割を担っている。このことにより、参加者全員が体験・運営することによりグループの合意形成が図られる。

参考資料2-3

事務担当、事務局名簿(統括事務局、ブロック事務局)

*運営スタッフは主な者である。

統括事務局名簿

名称	一般社団法人 全国林業改良普及協会				
所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル2階				
電話番号	03-3584-6625				
運営スタッフ	事務局長	宇田恭子			
	スタッフ	中山 聡	本永剛士	石井麻美	三石 麗
		森本 唯	岩淵光則	吉田憲恵	齊藤恵巳

北海道ブロック事務局

名称	株式会社 森林環境リアライズ	
所在地	〒064-0821 北海道札幌市中央区北一条西21丁目3番35号	
電話番号	011-699-6830	
運営スタッフ	事務局長	池ノ谷重男
	スタッフ	朝野英昭 森 彩

東北ブロック事務局

名称	岩手県森林組合連合会	
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通り3丁目15-17	
電話番号	019-654-4411	
運営スタッフ	事務局長	木幡英雄
	スタッフ	藤沢実那 伊藤陽介

関東ブロック事務局

名称	群馬県森林組合連合会	
所在地	〒379-2153 群馬県前橋市上大島町182-20	
電話番号	027-261-0615	
運営スタッフ	事務局長	高橋伸幸
	スタッフ	山田 剛 須藤智亮

中部ブロック事務局

名称	株式会社 益建リバーズ	
所在地	〒509-2503 岐阜県下呂市萩原町西上田2641-1	
電話番号	0576-52-3280	
運営スタッフ	事務局長	大森政朗
	スタッフ	阪本敏男

近畿中国ブロック事務局

名称	新見市森林組合	
所在地	〒718-0002 岡山県新見市下熊谷407-2	
電話番号	0867-72-2179	
運営スタッフ	事務局長	小山正明
	スタッフ	黒田里美

四国ブロック事務局

名称	一般社団法人 高知県山林協会	
所在地	〒780-0046 高知県高知市伊勢崎町8-24	
電話番号	088-822-5331	
運営スタッフ	事務局長	長澤佳暁
	スタッフ	永野俊彦

令和 2 年度市町村支援技術者養成事業
報告書

発行日：令和 3 年 2 月 2 6 日

発行：令和 2 年度市町村支援技術者養成事業統括事務局
一般社団法人 全国林業改良普及協会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル2階

TEL 03-3584-6625